



北信がんフロ
超少子高齢化地域での
先進的がん医療人養成

2019年度 事業報告書



石川県公立大学法人
石川県立看護大学
ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

目 次

巻頭言

- ・はじめに 1
牧野 智恵

2019年度

がん看護専門看護師 (Oncology Certified Nurse Specialist: OCNS) 育成の取り組み

1 本科生の育成

- ・「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」(北信がんプロ) の概要と
本学におけるがん看護専門看護師養成 5
牧野 智恵
- ・北信がんプロ 本科生の学び 7
濱鍛治青水
北川 寿子
- ・がん看護専門看護師認定試験に合格して 9
金沢医科大学病院 藪下 佳子
富山大学附属病院 樋口麻衣子

2019年度本学において超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成 (北信がんプロ) にて企画・実施した内容の報告

2 インテンシブコース

- ・今年度の本学におけるインテンシブコースの成果 13
牧野 智恵
- ・ライフステージ事例検討会の運営に携わって 15
松本 智里
- ・ライフステージ事例検討会に参加して 16
北川 寿子
- ・ライフステージ事例検討会 参加者アンケート集計結果 17
岡山のぞみ
- ・ライフステージ事例検討会 参加者人数 21
岡山のぞみ
- ・ライフステージ事例検討会 ポスター 23

3 看護実践セミナー

「リンパ浮腫ケアについて 臨床で行なうリンパ浮腫ケア 基礎編/アドバンス編」

- ・臨床で行なうリンパ浮腫のケア 基礎編を開催して 25
金谷 雅代
- ・臨床で行なうリンパ浮腫のケア 基礎編・アドバンス編 27
講師 富山県立中央病院 時山 麻美
- ・臨床で行なうリンパ浮腫のケア 基礎編に参加して 28
北川 寿子
- ・臨床で行なうリンパ浮腫のケア 基礎編 ポスター 29
- ・臨床で行なうリンパ浮腫のケア 基礎編 アンケート集計結果 30
岡山のぞみ
- ・臨床で行なうリンパ浮腫のケア アドバンス編を開催して 33
磯 光江
- ・臨床で行なうリンパ浮腫のケア アドバンス編 34
講師 福井県済生会病院 山野 洋子
- ・臨床で行なうリンパ浮腫のケア アドバンス編に参加して 35
小松市民病院 谷 雅美
- ・臨床で行なうリンパ浮腫のケア アドバンス編 ポスター 36
- ・臨床で行なうリンパ浮腫のケア アドバンス編 アンケート集計結果 37
岡山のぞみ

4 FD・SD研修

「ゲノム医療の現状と薬物間相互作用を知り、現場に活かそう」

- ・ゲノム医療の現状と薬物間相互作用を知り、現場に活かそうを開催して 39
金沢大学 菅 幸生
- ・がんゲノム医療の現状と看護上の倫理的課題 40
講師 東邦大学 村上 好恵
- ・抗がん剤のPK/PDと相互作用 42
講師 東京大学医学部付属病院 大野 能之
- ・ゲノム医療の現状と薬物間相互作用を知り、現場に活かそう ポスター 44
- ・ゲノム医療の現状と薬物間相互作用を知り、現場に活かそう アンケート集計結果 45
金沢大学 菅 幸生

5 北陸CNSの会 共催企画

- ・意見交換会 CNS高度実践看護のあり方 48
今方 裕子
- ・CNS対象 がん看護事例検討会を開催して 49
瀧澤 理穂
- ・第1回CNS関係者によるがん看護事例検討会 ポスター 50
- ・第2回CNS関係者によるがん看護事例検討会 ポスター 51
- ・CNS関係者によるがん看護事例検討会 参加者アンケート集計結果 52
岡山のぞみ

6 日本看護科学学会

- ・第39回 日本看護科学学会学術集会 平田オリザ先生、西村ユミ先生の対談
「人間を理解することの限界と挑戦～現象学的視点からの他者理解を考える～」を聴講して . . 54
瀧澤 理穂
- ・第39回 日本看護科学学会学術集会に参加して 55
今方 裕子
- ・第39回 日本看護科学学会学術集会 ポスター 56

7 小児とがん

- ・小児・AYA世代のがんを知る 57
富山大学附属病院 樋口麻衣子
- ・小児・AYA世代のがんを知る ポスター 58

<おわりに>

- ・令和元年の「北信がんプロ」の1年を振り返って 59
牧野 智恵

- 2019年度「北信がんプロ」委員会、本学企画・運営担当者 一覧表 60

はじめに



石川県立看護大学学長補佐
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）
石川県立看護大学 がんプロ企画運営委員
企画・総務委員長 牧野 智恵

がんは、我が国の死因第一位の疾患で、生涯のうちに約2人に1人が罹患するといわれ、約3人に1人はがんで亡くなるとも言われております。

本学は2018年度からスタートした「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン（2017-2021：文部科学省）に採択された「北信がんプロ」（基幹校：金沢大学）の一員として、看護職の立場からがん看護に関する専門医療人の養成を行っています。

この「北信がんプロ」は、「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」をテーマにし、がんゲノム医療、小児がん、希少がん、AYA世代や高齢者のライフステージに応じたケアに対応できる医療従事者を養成することを目的としています。本学は、小児看護から老年看護まで、年齢幅を広げた取り組みを展開しております。また、本学は、石川県の能登地域の入り口に位置するかほく市にあり、過疎地域の住民の健康問題、医療問題、看護の課題に対して、従来から研究や支援をしまいにしました。学部学生・大学院生も過疎地域で学ぶ機会が多く、知らず知らずに過疎地域への親和性を高めております。そのようなことから、過疎地域におけるがん看護やがん医療の問題に取り組んでおります。

第3期がん対策基本推進計画では「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す」と述べられております。その施策には、「小児がん、AYA (Adolescent and Young Adult) 世代のがん、高齢者のがん医療の充実」「ライフステージに応じたがん対策」が示されています。

北信がんプロは、金沢大学、金沢医科大学、福井大学、富山大学、信州大学など医学部を持つ大学が中心となっているなか、本学は看護の単科大学として独自性を発揮せねばならないと考えております。今年度は各大学の学長が参加する学長連絡協議会が長野市（信州大学医学部）で実施され、今年度の各大学の様々な活動の報告がなされ、信州大学が参加したことによって、ゲノム医療におけるコーディネーターや、AYA世代への医療への講演や企画が増え、ますます活発に討議されているように感じております。

今年度は、ゲノム遺伝子パネル検査の一部が保険適応となったことを受けて、金沢大学の医薬保健研究域薬学系との合同企画では「ゲノム医療の現状と薬物相互作用を知り、現場に活かそう」（2019年10月）を実施しました。

また、2020年1月ごろより新型コロナウイルスの感染拡大にともない、いくつかの企画を中止せざるを得なくなりました。3月22日（日）開催予定であった市民公開講座「がんになっても自分らしい人生を過ごすために」、3月3日（火）開催予定のライフステージ事例検討会、3月の海外研修などは中止としました。しかし、現段階では、感染拡大を抑えることが第一優先であり、1日も早く終息することを祈っております。

発行の時期の関係上、12月までに開催した活動内容を、本報告書に掲載しております。また、本学のホームページにも、今年度までのがんプロ企画で実施した研修内容を見ることができるよう整備いたしました。是非、本学のホームページやがんプロのホームページをご覧ください、がん医療の知識を習得いただければ幸いです。

令和2年2月吉日

2019年度
がん看護専門看護師
(Oncology Certified Nurse Specialist: OCNS)
育成の取り組み

「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」(北信がんプロ)の概要と 本学におけるがん看護専門看護師養成

大学院実践看護学領域・成人看護学(がん看護)分野 教授
北信がんプロ・コーディネーター、本学がんプロ企画運営委員長
牧野 智恵

1. 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成の概要

文科省は、2017年度から5年間にわたる第3期のがんプロを提案し、そのテーマを「多様な新ニーズへの対応」とした。その期待される成果としては、「がんゲノム医療従事者の育成」「希少がん・小児がんに対応できる医療人材の育成」「ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成」の3つである。

北信がんプロでは、北信4県(長野県、富山県、石川県、福井県)の平成27年の生産人口(15-64歳)が全国平均の平成42年のそれよりも少ない(総務省統計局統計データより)ことから、北信地域を超少子高齢化地域と位置付け、「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」をテーマに掲げた。



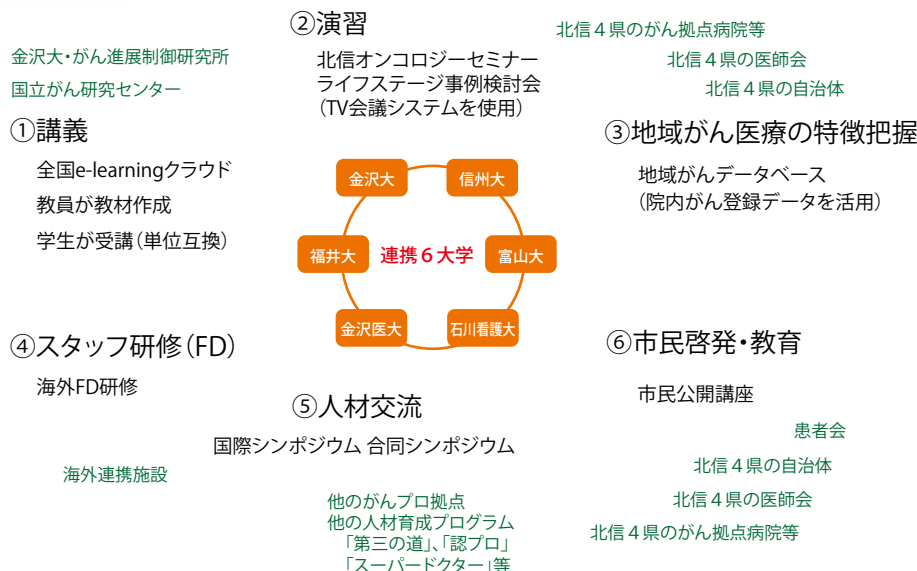
図1 北信がんプロの概要(パンチ図)

北信がんプロの実施内容として、1) 6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース(本科10、インテンシブ9)。2) テレビ会議システムを発展させた、北信オンコロジーセミナー、事例検討会。3) スタッフ研修として海外FD研修の実施。4) 他のがんプロ拠点や、人材育成プログラムとも積極的に連携し、国際シンポジウム、合同シンポジウムの実施。5) 市民啓発、がん教育活動の一環として患者会との連携や、北信4県の自

治体、医師会、がん拠点病院と連携し、市民公開講座やシンポジウムの開催などである。本学は主に、大学院教育では、がん看護専門看護師の育成（本科生）と、テレビ会議システムを活かした事例検討会を実施し、がん強い看護師の育成に努める。

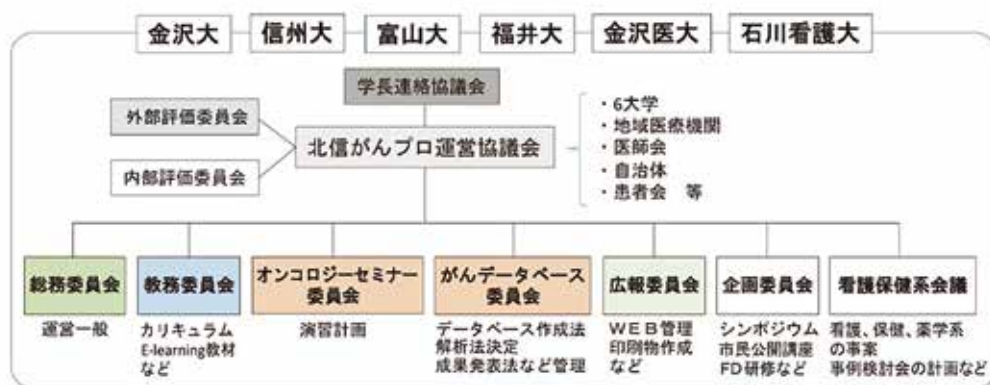


北信がんプロの実施事業



超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）では北信地区の医科系・看護系6大学の連携のもと、下記のように学長連絡協議会、外部評価委員会、内部評価委員会、並びに北信がんプロ運営協議会（6大学、自治体、医師会、がん拠点病院、患者会等）を設置し、事業が当初の目的通り、計画通りに進捗しているかを定期的にチェックしている。

また、6大学間では総務委員会、教務委員会、オンコロジーセミナー委員会など、各種委員会に各委員会の担当教員を配置し、計画的かつ適切な事業運営が進められるよう定期的に委員会を開催している。



事業推進代表者：山崎 光悦（金沢大学学長）

事業責任者兼統括コーディネーター：金沢大学がん進展制御研究所腫瘍内科学教授 矢野 聖二

本科生の学び

石川県立看護大学院博士前期課程 本科生2年

実践看護学領域・成人看護学分野

濱鍛治 青水

私は、2018年4月に本学大学院のがん看護専門看護師養成コースに進学しました。職場を休職し学業に専念した2年間のなかで、患者や医療現場で起こった現象を捉えなおし、自分の看護実践を振り返る機会となり、大変刺激の多い日々でした。この2年間の学びは、大学院の講義や実習からだけではなく、北信がんプロのライフステージ事例検討会での実際の事例を通じた他施設の医療従事者との意見交換から、新たな視点や取り組みを学び、患者中心の看護とはどういうことなのか、自分の考えを深める機会となりました。

また1年目に特任助手として関わったことで、私たちが安心して学ぶことができるのは、事務の方をはじめ、関わる先生方のお陰であることを実感致しました。講演会の企画や参加を通して他大学の多職種の方と知り合えたことも大切な経験となりました。今後は北信がんプロでの貴重な学びを糧とし、がん看護向上のために学びを深め、取り組んで参りたいと思います。

本科生としての学び

石川県立看護大学大学院博士前期課程 本科生1年

実践看護学領域・成人看護学分野

北川 寿子

私は、2019年4月に本学大学院のがん看護専門看護師養成コースに進学しました。現在は、職場を休職し、学業に専念する中で、改めて自分の看護について見つめ直す日々を過ごしています。

大学院での講義や演習を通して、これまでの看護実践を結びつけながら看護理論などを改めて学ぶ中で、忙しさや時間のなさを理由に、自分の看護を十分に振り返ることが出来ていなかったことに気付きました。

休職し臨床を離れていることによって実践感覚が鈍るのではないかと不安になることもありました。しかし、北信がんプロのライフステージ事例検討会やCNS関係者によるがん看護事例検討会に参加することによって、臨床現場で実際に起こっていることや看護について具体的に知る機会になりました。がん看護専門看護師のレクチャーや意見交換の中で、自分自身の物事を捉える視野の狭さや偏りがあることに気付きました。また、自分自身の看護を振り返り意味づけることや、言語化し、伝えていくことの大切さについても学びました。

さらに、北信がんプロe-ランニングを受講することによって、今話題のがんゲノム医療などの知識を自分のペースで得ることが出来たと感じています。

今後は、本科生として学んだことを、看護実践や研究に活かしていきたいと考えています。

がん看護専門看護師認定試験に合格して



金沢医科大学病院　がん看護専門看護師
藪下 佳子

私はがん患者さんを医療現場だけでなく、それぞれの地域で支える必要性があると感じ、地元である能登から石川県立看護大学を編入学しました。大学にて地域看護を学ぶうちに、更にごがん看護の専門性を高めたいと考え、大学院博士前期課程がん看護専門看護師コースを受験しました。

大学院在学中はがんプロの本科生として学びを経て、大学院修了後は金沢医科大学病院に就職し、消化器外科・乳腺外科を中心とする病棟に勤務しました。新しい環境に身を置きながら、認定試験の準備をすることは容易ではありませんでした。特に、がん患者さんやご家族と向き合い、葛藤しながら看護実践し、事例としてまとめることは想像以上に困難でした。そうした中、2019年12月、がん看護専門看護師の認定を受けることができました。まずは、ご指導いただきましたがんプロ関係者、石川県立看護大学の教員の皆様に感謝いたします。がん患者への関わりの事例を整理するため、先輩のがん看護専門看護師でもある病棟師長や主任が暖かく支援してくださいました。また、事例検討会等で、北陸で活躍するがん看護専門看護師の方々に多角的な考え方をアドバイスいただきました。沢山の方に支えていただき、心よりお礼申し上げます。

がん看護専門看護師の認定を受けた喜びもつかの間、私は育児のためしばらく臨床を離れ自宅にて育児に専念しますが、複雑化するがん医療やがん患者さんのライフステージに柔軟に対応できるよう、日々の情報収集や事例検討会への参加を通して邁進していきたいと考えています。

がん看護専門看護師認定試験に合格して



富山大学附属病院 がん看護専門看護師
樋口 麻衣子

私は、2019年に石川県立看護大学大学院博士前期課程がん看護CNSコースを終了し、同年11月に認定審査を受験し、この度日本看護協会認定のがん看護専門看護師の資格を取得しました。2年前、現在務めている富山大学附属病院を一度退職して2年間学業に専念することを決心しました。自分の興味のある分野に立ち止まり、看護に対して熱い思いや考えのある先生方や同期と学び語り合えた時間はとても貴重で充実していたと感じています。

卒業後は、元の職場に再就職し7年ぶりに泌尿器・口腔外科・皮膚科の混合病棟の所属となりました。日々業務を終わらせるのに精一杯でしたが、そんな中で受験するモチベーションを維持出来たのは、今までお世話になった先生方、がん看護専門看護師の先輩方に早くよい報告を伝えたかったからでした。

これからがん看護専門看護師として病棟で活動することとなりますが、高齢化やがんゲノム医療、ACP、がん就労など時代と共にがん治療に関わる課題が生まれ変化しています。これまで以上に他分野の職種や他領域の専門・認定看護師と協同し、チーム医療を実現していきたいと思っています。そしてがんと共に生活する患者さんをどう支えていくか立ち止まる時間を持ち、個々が持つ力を取り戻せるように支援し、さらに生活の質が向上するためにも患者さんを取り巻く社会環境に働きかけて行けたらと思います。

これからは、病棟のスタッフと看護の質を上げていくためにも臨床で学び続け、日々研鑽することを忘れず、信頼されるがん看護専門看護師を目指していきたいと考えています。

**2019年度
本学において超少子高齢化地域での
先進的がん医療人養成（北信がんプロ）にて
企画・実施した内容の報告**

今年度の本学におけるインテンシブコースの成果

大学院実践看護学領域・成人看護学（がん看護）分野 教授
北信がんプロ・コーディネーター、本学がんプロ企画運営委員長
牧野 智恵



北信がんプロでのインテンシブコースは、「がんライフケアコース」と「看護師インテンシブAコース」を実施している。前者は、北陸3県と長野県内の病院に勤務し、がん患者のケアに携わる医療従事者を対象としており、今年は予定応募数5名からの申し込みがあった。また、後者は、がん看護専門看護師教育課程を修了した者を対象としており、本年度は2名の者が申し込んでくれた。

それぞれのコースの基本となっている科目は、本学が主催している「ライフステージ事例検討会」（60分）と、がん看護専門看護師による「ミニレクチャー」（20分）であり、遠隔地からでも参加できるよう、テレビ会議システムを用いていることが大きな特徴である。毎回、本学の教員、大学院生、がん看護専門看護師、そして医師も参加し、テレビ会議システムの導入してある北信4県の病院の人たちががん患者の事例について意見交換されている。昨年度から、長野県の病院が加わり、30施設が事例検討会に参加し、全施設と同時に事例検討会が実施できることとなった。北陸と長野県は、施設が点在しており、また、公共交通機関が不十分ということがあり、遠隔地の病院で働く医療職者が本学の事例検討会に参加が困難であったが、テレビ会議システムを利用することで多くの関係者の参加が可能になり、有効な教育方法となっている。

以下、それぞれのコースの特徴について簡単に紹介したい。

1. 「がんライフケアコース」

昨年度からは、看護師のみならず、薬剤師、医師、理学療法士など多職種が参加できるように事例を工夫し、緩和ケア、がんリハビリ、化学療法・放射線療法などを受ける患者の事例について意見交換をしている。

2. 「がん看護インテンシブAコース」

平成19年度から実施しているコースの一つで、北陸がんプロのがん看護本科生（大学院のがん看護専門看護師課程）を修了し、今後がん看護専門看護師の受験をめざしている看護師、または更新予定のがん看護専門看護師を対象としたコースである。

また、7月（参加者23名）と10月（参加者14名）にがん看護専門看護師と本コース申請者を対象に、がん看護専門看護師の知識と技術のブラッシュアップと専門看護師の受験に向けた学習のため

の事例検討会を実施した。今年度は、特別コメンテーターとして7月には北里大学病院の近藤まゆみがん看護専門看護師にお越しいただいた。10月には北陸CNSの会のメンバーで今年度CNS受験を予定している人の事例検討と、これまでのCNS活動の中での困難事案について意見交換を行った。このような少人数での事例検討会に参加することによって、日頃、施設のがん看護の向上のためにひとりで悩んでいるがん看護専門看護師も、互いに困っている事例の共有ができ、問題解決能力を高める一助になっているようである。その成果もあり、今年度は2名のがん看護専門看護師が認定試験に合格した。

2019年7月の事例検討会の様子



2019年10月の事例検討会の様子

ライフステージ事例検討会の運営に携わって

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

石川県立看護大学 かんプロ企画運営委員

松本 智里

ライフステージ事例検討会は、北信4県の施設をテレビ会議システムでつなぎ、施設の垣根を越えて、日頃のがん患者様やそのご家族へのケアについて意見交換することを目的としています。内容は事例検討会と、がん看護専門看護師によるミニレクチャーです。現在30施設がこのシステムに参加しており、今年度より参加施設の制限がなくなったため、より多くの方が参加できるようになりました。

また、この事例検討会は、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、ケアマネジャーなど、多職種が参加しており、様々な視点から事例を振り返ることができます。多施設・多職種からの多様な意見を吸収し、新しい観点を見出せることが、この事例検討会の最大の特徴であり、大きなメリットかと思います。

このような素晴らしい事例検討会がほぼ毎月のように開催できますのも、事例やミニレクチャーをご担当くださる看護師やがん看護専門看護師の皆様をはじめ、各施設のがんプロ担当者の皆様、なにより事例検討会に参加してくださる皆様のおかげと、関係者各位に深く感謝しております。この事例検討会が、月一回の単なる事例検討会だけでなく、がん患者様やそのご家族のケアに携わる皆様のネットワーク作りの一環となり、さらなる発展に向かいますことを願っております。



ライフステージ事例検討会に参加して

石川県立看護大学大学院博士前期課程1年

実践看護学領域・成人看護学分野

北川 寿子

ライフステージ事例検討会は、年8回開催されており、テレビ会議システムによって北信4県の医療機関及び大学がつながり、提供事例を共有し意見交換を行う場となっています。

今年度は、転倒転落の可能性が高い高齢患者、予後告知がなされていない患者、退院についての思いが揺れ動いている患者、看護師が対応に困難さを感じる家族との関わりなどについての事例が提供されました。これらの事例は、私が看護現場でジレンマを感じていた事例とよく似ているものばかりでした。そのため、これまでの自分自身の看護を振り返り、同じような状況に遭遇した場合にはどのように対応できるかを考えることが出来ました。

ライフステージ事例検討会では、施設や立場の垣根を越えた意見交換がなされていると感じました。幅広い視点からの新鮮な意見を得られ、他施設における様々な取り組みについて知る機会になりました。さらに、患者・家族の言動や行動の意味を理解することの大切さや、目の前に起こっていることを自分の価値観や考え方で捉えてしまっていることに気付く機会にもなりました。

また、事例検討後のがん看護専門看護師によるミニレクチャーでは、それぞれの回の事例に関するトピックスなどが紹介され、看護実践にすぐに生かせるヒントを得ることが出来ました。

ライフステージ事例検討会に参加して得たことを今後の看護実践などに生かしていきたいと思っています。

ライフステージ事例検討会 参加者アンケート集計結果

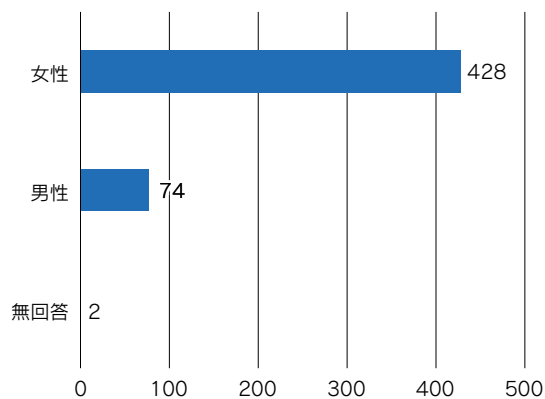
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

担当 岡山のぞみ

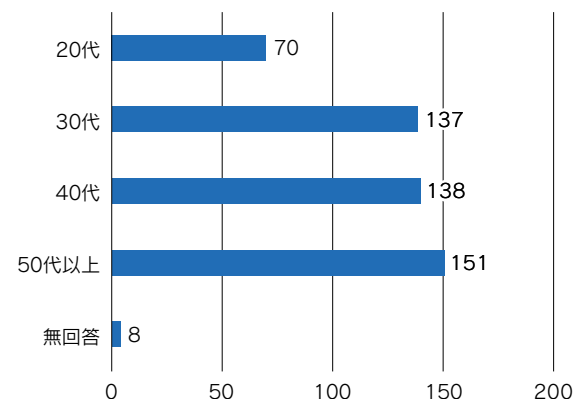
第1回から第6回までのライフステージ事例検討会にて581名参加し、アンケート回収者数は504名（石川県：261名、富山県：166名、福井県：22名、長野県：47名、無回答：8名）、回収率86%であった。

1. 参加者について（n = 504）

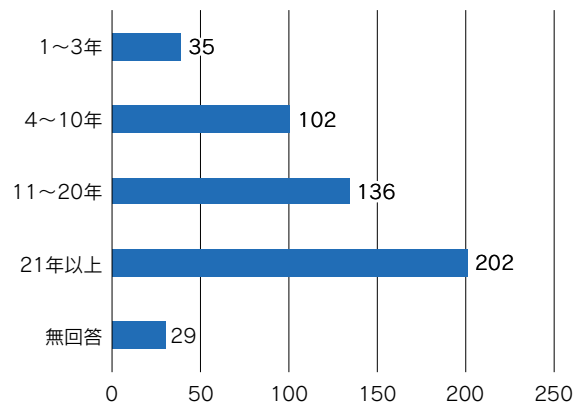
1) 性別



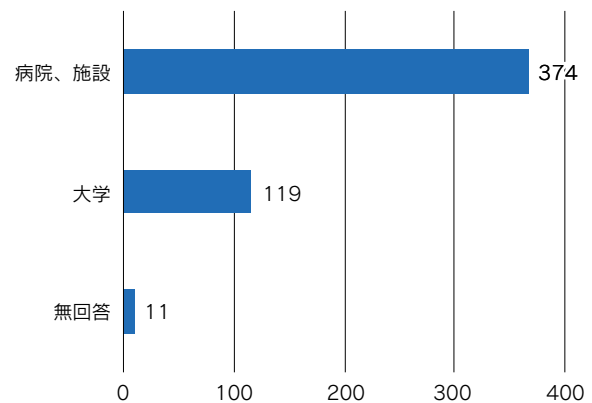
2) 年齢



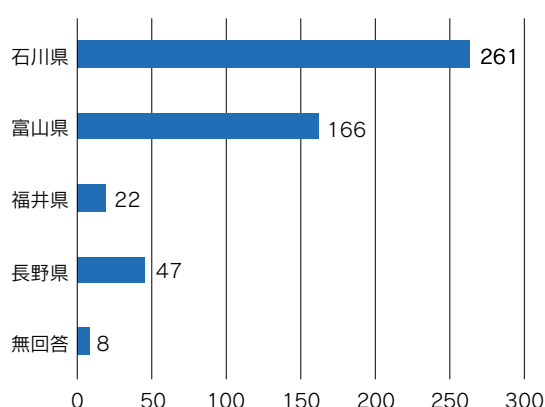
3) 臨床経験年数



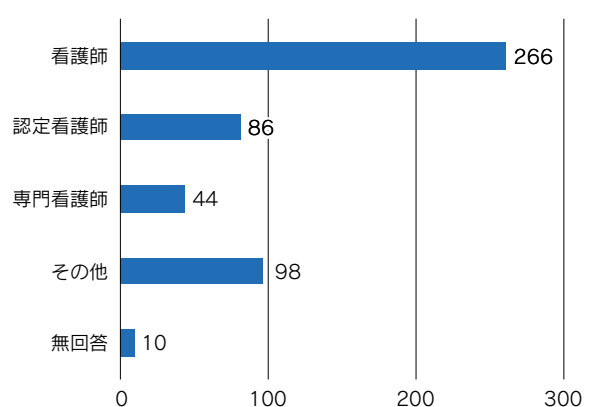
4) 勤務施設



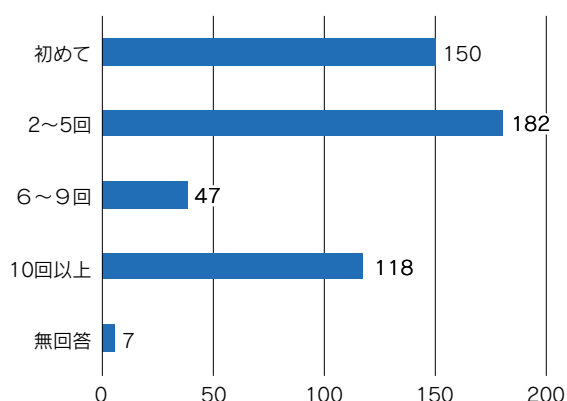
5) 勤務地



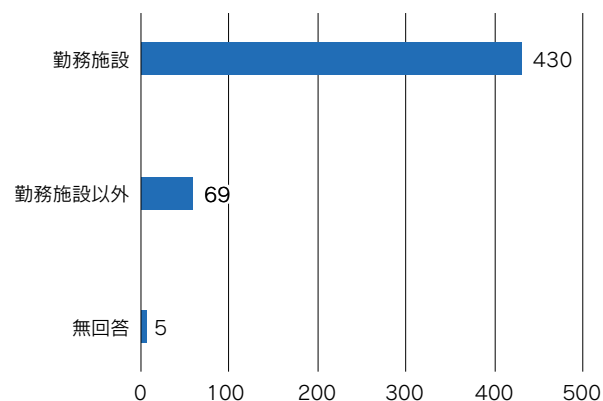
6) 保有資格



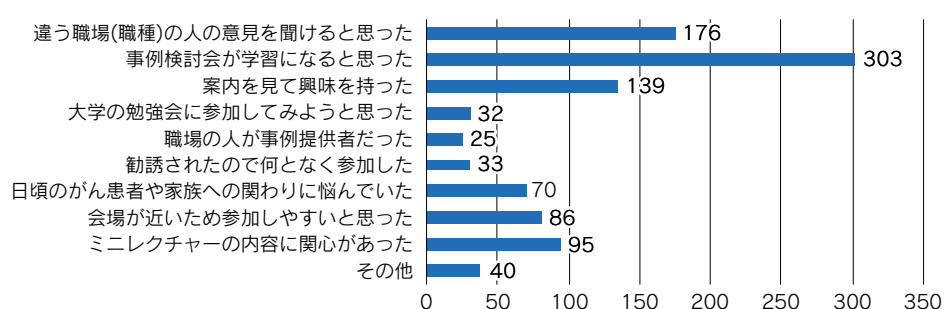
7) 参加回数



8) 参加会場

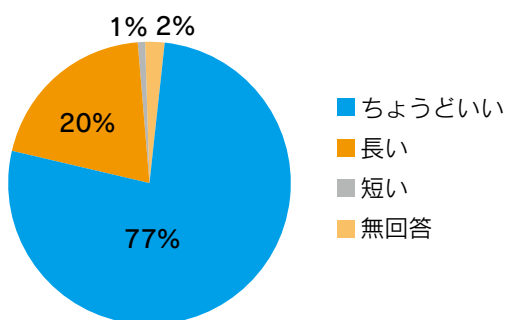


9) 事例検討会の参加動機（複数回答可）

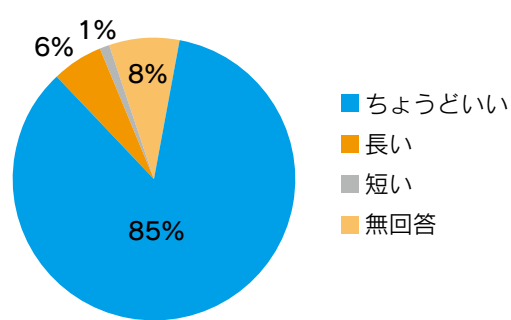


2. 事例検討会の内容について（n = 504）

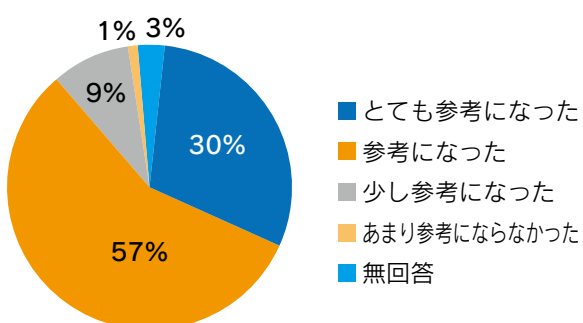
1) 事例検討会の所要時間



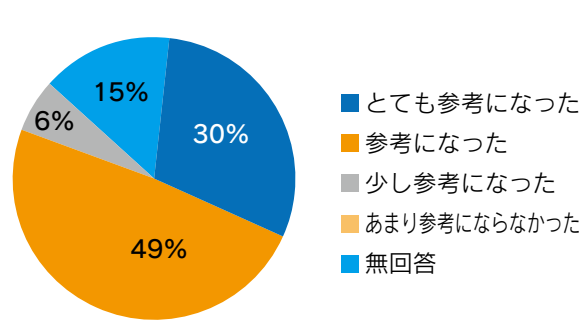
2) ミニレクチャーの所要時間



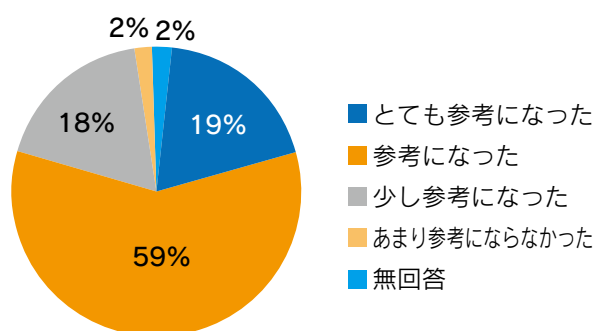
3) 事例検討会の内容



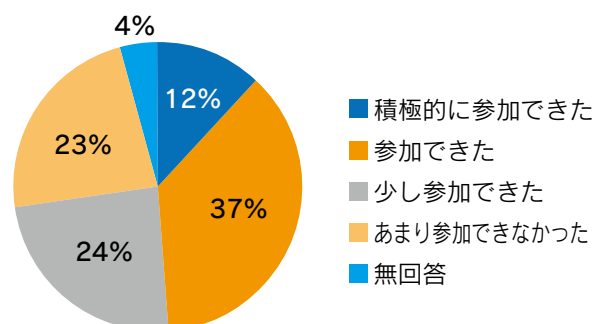
4) ミニレクチャーの内容



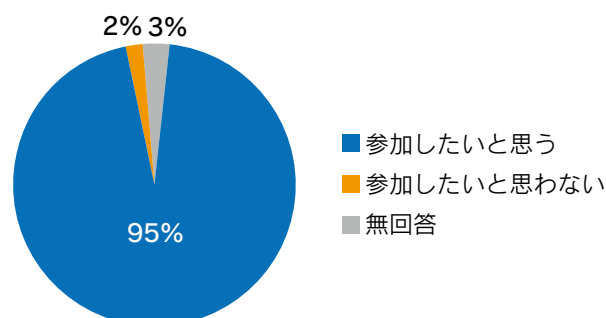
5) 今後の看護実践への活用



6) 討議参加への積極性



7) 今後の参加の希望の有無



3. 自由回答への記載内容 () 内は人数を示す

事例検討会の意見・感想

- ・他施設から多くの参加があり、意見や取り組みを知ることが出来、大変勉強になった (6)
- ・身近にある看護の事例で分かりやすく、とても参考になった (3)
- ・とても興味深い内容で、今後も参加したい (4)
- ・ミニレクチャーが分かりやすかった (2)
- ・少しでも患者さんのために寄り添えるように勉強させて頂いた。今後大いに活用していきたい (2)
- ・事例に関わる内容について医師、薬剤師からの意見も知りたい
- ・タイムリーな内容だったので、モヤモヤしていた部分を臨床へ持ち帰りチームへ伝えて、患者さんにとって何が良いか考えケアに繋げたい
- ・すごく良い事例だった。ケアの意味付けを考えると、家族ケアを通して自分の価値観に気づくことが大切だと思った。患者・家族に寄り添うこと、とても深い言葉で改めて看護について考える機会となった
- ・ケアマネジャーさんの報告があり良かった
- ・患者家族からのコメント、認識が聞けたのは事例の結末を考える上で良かった。次回以降の事例でも可能であれば入れてほしい
- ・家族ケアはいつも自分の育った環境や価値観が出てしまうと感じ悩んでいた。一人で悩まず、話し合うことが大切だと思った
- ・事例は看護師以外の職種もディスカッションしやすいケースにすることも大切だと思う

事例検討会の運営について

- ・時間通りに始まり、時間通りに終わってほしい (3)
- ・全施設のたくさんの意見を聞いたことは良かったが、タイムリーにする為に挙手制にした方が良いのではないかと思った (2)
- ・マイクの音に雑音が入ったり、聞き取りにくかったのが残念だった (2)
- ・時間配分が上手くいっていないように感じた。発表者の他にタイムキーパー、進行者がいると円滑に進行できるのではないかと思った (2)
- ・終わる時間がもう少し早くなると、子育て中のスタッフが参加しやすいのではないかと思う (2)
- ・質問に対する返答までの待ち時間が長かった (5)
- ・施設毎の考える時間をもう少し欲しい (2)
- ・課題を各施設に検討してもらい、発表施設は実際にこのケースにどう行動したのかを先に伝えた後、質疑応答をしてもらいたい

今後期待する事例

- ・精神疾患を抱えるPT、Faとの関わり方（発達障害なども含む）
- ・家族と本人の思いのずれ（本人は延命を望んでおらず、家族は望んでいる場合など）に悩むことが多いため、事例検討会として行ってほしい
- ・NSがPTや家族、他スタッフと意見が対立してジレンマを感じた事例をやってほしい
- ・がん患者の子どもへの告知について取り上げてほしい
- ・AYA世代がん患者を支える医療者の性と生殖に関する捉え方の現状はどうか、AYA世代がん患者の性・生殖に関してのサポート体制の現状を知りたい
- ・AYA世代は小児領域から成人期へのフォローアップの移行が難しく、そもそもフォローアップ体制の不十分さを、日頃から感じて働いている。その辺りの事例やレクチャーがあれば参加したい
- ・患者の意思決定支援についていつも悩むので、どうやって話題にしたらいいのか教えて頂きたい
- ・アピアランスケアに関する事例、ミニレクチャーをもっとやってほしい

ライフステージ事例検討会 参加者人数

回数 開催日時	担当	参加大学・病院名	看護師 (医療機関)	看護師 (在宅等)	医師/ 歯科医師	その他	計
第1回							0
2019.6.4 (火) 17:45 ~		金沢大学	10	0	3	検査技師 1、大学院 5	19
		富山大学	7	0	1	薬剤師 2	10
	○	福井大学	9	0	0		9
		金沢医科大学	6	0	3		9
		石川県立看護大学	0	0	0	教員 5、大学院 1	6
		信州大学	8	0	1		9
		金沢赤十字病院	0	0	0		0
		公立能登総合病院	0	0	0		0
		石川県済生会金沢病院	3	0	0		3
		国立病院機構金沢医療センター	3	0	0		3
		公立松任石川中央病院	9	0	0	PT 1、その他 1	11
		石川県立中央病院	11	0	0	療法士 2、薬剤師 1、その他 2	16
		浅ノ川総合病院	0	0	0		0
		富山県立中央病院	0	0	0		0
		高岡市民病院	6	0	0		6
		富山市民病院	6	0	0		6
		富山赤十字病院	4	0	0	その他 2	6
		富山県済生会高岡病院	0	0	0		0
		黒部市民病院	0	0	0		0
		飯田市立病院	0	0	0		0
		参加者計	82	0	8		113
第2回							
2019.7.2 (火) 17:45 ~		金沢大学	4	0	4	大学院 3	11
		福井大学	3	0	0		3
		石川県立看護大学	0	0	0	教員 6、大学院 1	7
		信州大学	6	0	1	助産師 1、大学院 1	9
		恵寿総合病院	2	0	0		2
		公立能登総合病院	0	0	0		0
		石川県立中央病院	3	0	0		3
		石川県済生会金沢病院	1	0	0		1
		金沢市立病院	0	0	0		0
		小松市民病院	14	0	0		14
		浅ノ川総合病院	3	0	0		3
		富山県立中央病院	3	0	0	放射線技師 1	4
		高岡市民病院	15	0	0	その他 1	16
	○	市立砺波総合病院	10	0	1		11
		富山県済生会富山病院	4	0	0		4
		金沢医科大氷見市民病院	16	0	0		16
		厚生連高岡病院	4	0	0		4
		富山労災病院	3	0	0		3
		諏訪赤十字病院	0	0	0		0
		長野赤十字病院	0	0	0		0
		参加合計	91	0	6		111
第3回							
2019.8.6 (火) 17:45 ~		金沢大学	3	0	5	薬剤師 1、大学院 6	15
		福井大学	3	0	0		3
		富山大学	2	0	0	薬剤師 2、大学院 7、教員 2	13
	○	金沢医科大学	5	0	0	教員 1	6
		石川県立看護大学	2	0	0	大学院 2、教員 6	10
		信州大学	8	0	0	助産師 1	9
		金沢赤十字病院	0	0	0		0
		国立病院機構金沢医療センター	7	0	0		7
		公立松任石川中央病院	3	0	0	その他 2	5
		石川県立中央病院	2	0	0	薬剤師 1	3
		富山県立中央病院	1	0	0		1
		富山市民病院	3	0	1		4
		富山赤十字病院	0	0	0		0
		富山県済生会富山病院	4	0	0		4
		富山県済生会高岡病院	6	0	0		6
		高岡市民病院	6	0	0		6
		黒部市民病院	5	0	1		6
		参加者計	60	0	7		98

回数 開催日時	担当	参加大学・病院名	看護師 (医療機関)	看護師 (在宅等)	医師/ 歯科医師	その他	計
第4回 2019.10.1 (火) 17:45 ~							
		金沢大学	1	0	3	放射線技師 4、精神保健福祉士 1	9
		富山大学	5	0	0	薬剤師 2	7
		福井大学	4	0	0		4
		石川県立看護大学	1	0	0	大学院 4、教員 3	8
		信州大学	6	0	1	その他 3	10
		恵寿総合病院	2	0	0		2
		国立病院機構金沢医療センター	3	0	0		3
		小松市民病院	10	0	0		10
		公立松任石川中央病院	6	0	0	その他 1	7
		石川県立中央病院	9	0	0		9
		浅ノ川総合病院	3	0	0		3
	○	富山県立中央病院	15	0	0	ケアマネジャー 1	16
		市立砺波総合病院	5	0	0		5
		富山県済生会高岡病院	0	0	0		0
		金沢医科大学氷見市民病院	3	0	0		3
		富山労災病院	2	0	0		2
		飯田市民病院	0	0	0		0
		参加者計	75	0	4	0 8 11	98
第5回 2019.11.5 (火) 17:45 ~							
		金沢大学	1	0	7	大学院 5、放射線技師 1、薬剤師 1	15
		富山大学	6	0	0	薬剤師 2	8
		福井大学	1	0	0		1
		石川県立看護大学	1	0	0	教員 4	5
		信州大学	4	0	0		4
		金沢赤十字病院	0	0	0		0
		公立能登総合病院	0	0	0		0
		石川県済生会金沢病院	2	0	0		2
		金沢市立病院	0	0	0		0
	○	石川県立中央病院	7	0	0	薬剤師 1	8
		浅ノ川総合病院	0	0	0		0
		富山市民病院	2	0	0		2
		富山県立中央病院	0	0	0	放射線技師 1	1
		富山赤十字病院	0	0	0		0
		金沢医科大学氷見市民病院	11	0	0		11
		黒部市民病院	2	0	0		2
		富山労災病院	2	0	0		2
		諏訪赤十字病院	0	0	0		0
		長野赤十字病院	0	0	0		0
		参加者計	39	0	7	5 1	9 61
第6回 2019.12.3 (火) 17:45 ~	○						
		金沢大学	15	0	8	大学院 12、獣医 1、放射線技師 1	37
		福井大学	5	0	0		5
		金沢医科大学	0	0	2		2
		石川県立看護大学	1	0	0	大学院 2、教員 3	6
		信州大学	6	0	0		6
		恵寿総合病院	2	0	0		2
		石川県済生会金沢病院	3	0	0	薬剤師 1	4
		国立病院機構金沢医療センター	3	0	0		3
		金沢市立病院	1	0	0		1
		石川県立中央病院	7	0	1	その他 1	9
		富山県立中央病院	0	0	0		0
		高岡市民病院	0	0	0		0
		市立砺波総合病院	10	0	0		10
		富山県済生会富山病院	2	0	0		2
		富山県済生会高岡病院	4	0	0		4
		厚生連高岡病院	0	0	0		0
		黒部市民病院	3	0	0	社会福祉士 1	4
		諏訪赤十字病院	0	0	0		0
		飯田市民病院	5	0	0		5
		参加者計	67	0	11	12 3	7 100

2019年度 石川県立看護大学

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

テレビ会議システムを利用した ライフステージ事例検討会

多職種とともに日頃のがん患者への関わりをふり返りましょう！

北信4県のテレビ会議システムが設置されている施設を利用して行います！

施設の垣根を越えて、日頃のがん患者様やご家族へのケアについて意見交換しましょう！

◆開催日程（8回予定）

2019年 6月4日(火) 7月2日(火) 8月6日(火)
10月1日(火) 11月5日(火) 12月3日(火)
2020年 2月 4日(火) 3月 3日(火)



◆開催時間 17時45分～19時15分
(事例検討：60分、ミニレクチャー：30分)

◆対象 看護師、医療従事者
がん看護専門看護師申請予定者
休職中の看護師で復職を予定している方

◆会場 開催予定施設のテレビ会議システム設置室

※開催予定施設につきましては、裏面をご覧ください。

◆参加費 無料

◆内容 1) 事例検討：外来化学療法、在宅の患者支援
倫理調整、家族看護、緩和ケアなど
2) ミニレクチャー：OCNSの他、医師や薬剤師がミニレクチャーを担当します

お近くの開催予定会場からの参加をお待ちしております！
詳細はホームページをご覧ください。

石川県立看護大学
<http://www.ishikawa-nu.ac.jp/>
北信がんプロ.com
<http://www.gan-pro.net/>



◆アドバイザー◆

- ・牧野智恵：石川県立看護大学 成人看護学 教授（がん看護専攻）
- ・各施設のがん看護専門看護師（OCNS）、医師、薬剤師

◆参加申込先 外部施設から参加される方は前日までに開催予定施設までご連絡下さい。

* 開催予定施設、連絡先は裏面をご覧ください

◆お問い合わせ先 石川県公立大学法人 石川県立看護大学 総務課
〒929-1210 石川県かほく市学園台1-1 TEL (076)281-8300 FAX (076)281-8319

企画・運営 石川県立看護大学

主催：超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）
（石川県立看護大学・金沢大学・金沢医科大学・福井大学・富山大学・信州大学 共同企画事業）



	施設名	テレビ会議 システム設置室	6月4日	7月2日	8月6日	10月1日	11月5日	12月3日	2月4日	3月3日
がんプロ 主催 大学	金沢大学	医学類教育棟地階大多目的室、or 附属病院外来診療棟4階CPDセンター	○	○	○	○	○	○※佐伯	○	○
	富山大学	看護学科研究棟5階 成人看護学研究室1	○		○	○	○		○	○
	福井大学	院生棟4階セミナー室	○※松本	○	○	○	○	○	○※久保	○※玉村
	金沢医科大学	基礎研究棟3階 大学院セミナー室	○		○※上埜			○		
	石川県立看護大学	小講義室2	○	○	○	○	○	○	○	○
	信州大学	医学部基礎5階第2会議室	○	○	○	○	○	○	○	○
石川県	金沢赤十字病院	5階会議室	○		○		○		○	
	公立能登総合病院	第4会議室	○		○		○		○	○
	恵寿総合病院	3病棟6階 会議室		○		○		○	○	
	石川県済生会金沢病院	討議室	○	○			○	○		○
	国立病院機構金沢医療 センター	地域医療研修センター 第1研修室	○		○	○		○		○
	金沢市立病院	東館3階教育研修室		○			○	○	○	
	小松市民病院	南館4階第4研修室		○		○			○	○
	公立松任石川中央病院	地域医療連携棟会議室	○		○	○				○
	石川県立中央病院	3階会議室2	○		○	○	○※藤川	○		
	浅野川総合病院	本館3階研究室		○		○	○		○	
富山県	富山県立中央病院	中央診療棟5階 52会議室	○	○		○※時山		○		○
	富山市民病院	地域医療研修センター	○		○		○		○	
	高岡市民病院	講義室	○	○				○		○
	市立砺波総合病院	医局棟5階 カンファレンス室		○※平		○		○	○	○
	富山赤十字病院	3階 講義室	○		○		○		○	
	富山県済生会富山病院	消化器内視鏡センター カンファレンス室		○	○			○		○
	富山県済生会高岡病院	8階 講義室	○		○	○		○		
	金沢医科大学 氷見市民病院	教育研修棟 2F 図書室		○		○	○		○	○
	厚生連高岡病院	がん相談支援室		○	○			○		○
	黒部市民病院	3階会議室	○		○		○	○	○	
	富山労災病院	講堂		○		○	○		○	○
	諏訪赤十字病院	管理等2階会議室		○	○	○	○	○	○	○
長野県	飯田市立病院	3階会議室	○		○	○		○		
	長野赤十字病院	講堂		○		○	○		○	
ミニレクチャー担当者			松本	平	上埜	時山	藤川	佐伯	久保	玉村

【○：がん看護事例検討会開催予定施設 ※：事例担当予定施設】

2019年度 開催施設・連絡先 及び 年間開催スケジュール

※外部から参加される方は前日までに開催予定施設の担当者までご連絡下さい。なお、4月・5月・9月・1月は開催しません。

2019年度 看護実践セミナー 「臨床で行なうリンパ浮腫のケア 基礎編」を開催して

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

石川県立看護大学 がんプロ企画運営委員

金谷 雅代

1. 看護実践セミナーの目的

リンパ節郭清や、放射線治療、化学療法といったがんの治療やがんの進行に伴ってリンパ浮腫が発生する。リンパ浮腫が生じていない段階の予防的介入から終末期におけるケアまで、様々な段階でのリンパ浮腫のケアが重要である。リンパ浮腫に関する知識をもち、アセスメントし教育やケアに携われるように、本セミナーを開催している。今年度は、がん看護専門看護師、リンパ浮腫セラピストとして実践している時山麻美先生に講師をお願いしてセミナーを開催した。以下の目標のもとに、基本的な知識から実践につながる内容、演習まで学ぶ機会とした。

2. セミナーの概要とスケジュール

講 師：富山県立中央病院 がん看護専門看護師

日本医療リンパドレナージ 中級セラピスト 時山 麻美先生

テーマ：臨床で行なうリンパ浮腫のケア 基礎編

日 時：令和元年8月24日（土） 9：30～16：00

場 所：石川県立看護大学 2階 中講義室4、成人・老年看護学実習室

〈セミナーの目標〉

- 1) がん治療に関連して発生するリンパ浮腫の機序と病態生理について理解する
- 2) リンパ浮腫のアセスメント方法を理解する
- 3) リンパ浮腫に対するケアの方法および評価方法について理解する

時 間		内 容
午前 (講義)	9：30～ 9：40	オリエンテーション
	9：40～10：50	リンパ浮腫の機序と病態生理、浮腫のアセスメント 診療報酬に結びつくリンパ浮腫指導管理料の指導内容
	休憩（10：50～11：00）	
	11：00～12：20	リンパ浮腫の複合的理学療法 日常生活のリンパ浮腫予防行動 リンパ浮腫の合併症とその対処法 終末期患者のリンパ浮腫ケア
休憩（12：20～13：20）		
午後 (演習)	13：20～14：50	複合的理学療法の基本的手技デモンストレーションと演習 ・セルフMLD、圧迫療法、上肢バンデージ 弾性着衣の製品紹介と使用方法説明
	休憩（14：50～15：00）	
	15：00～16：00	終末期患者へのアプローチ ・マッサージ、伸縮包帯での圧迫、チューブ包帯使用 ・実技と質疑応答

3. 結 果

北陸3県から66名が参加した。参加者は病院看護師、訪問看護師、作業療法士等多様な場で活動していた。時山先生には基本的な事柄を分かりやすく丁寧に解説いただいた。また、日頃の実践に基づいた具体例を多く挙げていただいたことで、参加者にはイメージが容易になり、より実践的な質問が多くあがった。

セミナー終了後のアンケートには64名から回答を得た。セミナー受講前後の理解・習得度についての自己評価はどの項目も高くなっていた。時山先生は参加者一人ひとりの腕に触れて実際の力加減や留意点を教授し、参加者は見ているだけでは学べない技術も学び取れたようである。

自由記載において、「今回の学びをスタッフにも伝達していきたい」という意見や、「マッサージの圧が軽くて驚いた。実際に足が軽くなるのを実感した」など、演習での成果が表れていた。

臨床で行なうリンパ浮腫のケア 基礎編・アドバンス編

富山県立中央病院 がん看護専門看護師
時山 麻美

私は、2012年に日本医療リンパドレナージ協会認定セラピストの資格を取得し、本学大学院を修了後2016年にがん看護専門看護師に認定されました。本研修に関して2年前からアドバンス編の講師として協力させて頂いており、本年度は、基礎編とアドバンス編の講師をさせて頂きました。基礎編では、定員以上の方が受講され、リンパ浮腫のケアを実践されている方から、本研修で基本的な知識を学びこれからの実践に活かしていきたい方、看護師だけでなく理学療法士の方など多職種の参加がみられました。年々訪問看護師の参加も増え、在宅療養する方へのリンパ浮腫のケアを学びたい受講者が多いのが特徴的です。本年度は現場の看護師が安全にリンパ浮腫のケアに対応できるように、リンパ浮腫予防指導の内容にそった基本的な知識、リンパ浮腫の鑑別、アセスメントするための視点、セルフケアに焦点をあてました。

アドバンス編では、リンパ浮腫を発症した患者の相談場面をロールプレイして頂きました。終末期ケアのアプローチでは受講生がペアになり、マッサージの手技を3人の講師が一人ひとりに伝達し、体験・実践して頂きました。実際に関わっている患者へのケアについての質問が多く、リンパ浮腫のケアへの関心の高さを実感しました。今後も受講生のニーズに沿った研修内容を検討し企画していく必要があります。

最後に、このような貴重な機会をいただきました石川県立看護大学の牧野智恵先生はじめ教員の皆様に心から感謝申し上げます。



臨床で行なうリンパ浮腫のケア 基礎編 に参加して

石川県立看護大学大学院博士前期課程1年

実践看護学領域・成人看護学分野

北川 寿子

私はこれまで臨床において、乳がんの術後でリンパ浮腫の予防についての指導を行うことがありました。しかし、病棟マニュアルに沿って説明するだけで、患者各々の生活など個別性を考慮した指導が出来ていませんでした。また、終末期の患者に浮腫が生じた場合も、どうしたらいいだろうと思いつつも、なかなか積極的にケアが出来ずにいました。

今回このセミナーに参加して、リンパ浮腫の機序と病態生理、浮腫のアセスメント方法などを基礎から学び直し、曖昧だった知識を補強し、整理することが出来ました。さらに、演習では、セルフドレナージについては実際にどの程度の力加減やスピードで行うか実際にを行いながら学ぶことが出来ました。リンパ浮腫について知識を得るだけでなく、実際にを行いながら手の力加減や動かすスピードについて一人ひとり丁寧に指導して頂き、現場ですぐに活かしていける学びになりました。そして、観察やアセスメントを行うだけでなく、ゆったりとした気持ちで実際に患者に触れ、マッサージをしながら、思いを傾聴していきたいと感じました。今後、このような学びを生かしていきたいです。このような貴重な機会を提供して頂きました、がん看護専門看護師時山麻美先生、スタッフの皆様ありがとうございました。



石川県立看護大学
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)

2019年度 看護実践セミナー

参加費
無料

臨床で行なう リンパ浮腫のケア ～基礎編～

日時

2019年

8月24日(土) 9:30～16:00 (受付 9:00～)

会場

石川県公立大学法人 石川県立看護大学
教育研究棟 2 階 成人・老年看護学実習室

講師

富山県立中央病院
がん看護専門看護師

時山 麻美 先生

内容

【午前】講義:リンパ浮腫の基礎知識
【午後】演習:リンパ浮腫ケアの演習

本研修は
修了証を
発行します

持ち物

昼食・内履き
半袖・半ズボン
(午後の演習で使います)

定員

50 名

※定員になり次第
締切とさせて
頂きます。

申し込み締め切り

2019年8月2日(金)

申込QRコード



★託児希望(定員あり)の方は**7月26日(金)**までにお申込ください。

お申込み方法に
ついては裏面を
ご覧ください。

主催 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)
(石川県立看護大学・金沢大学・金沢医科大学・福井大学・富山大学・信州大学 共同企画事業)



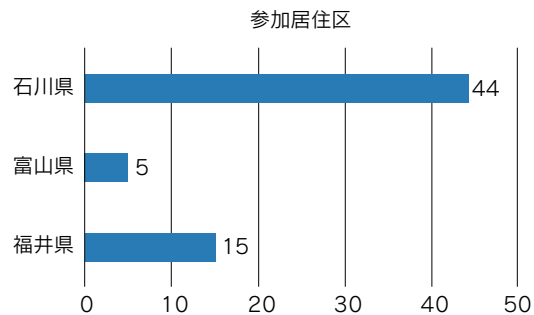
臨床で行なうリンパ浮腫のケア 基礎編 アンケート集計結果

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

担当 岡山 のぞみ

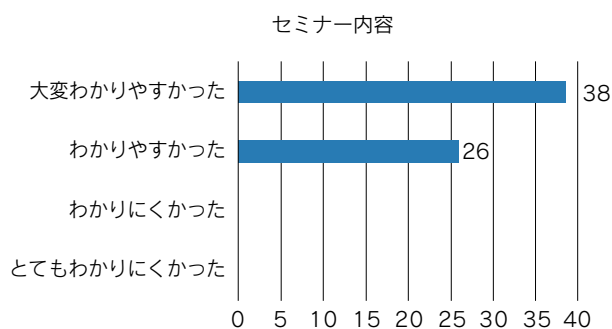
参加者は 66 名、アンケート回収者は 64 名（回収率 96.9%）であった。

1. 参加者の居住地区（n = 64）

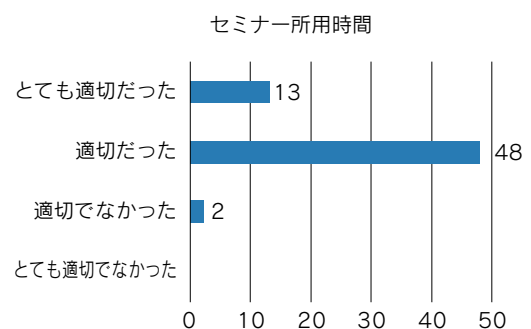


2. セミナーの内容等について（n = 64）

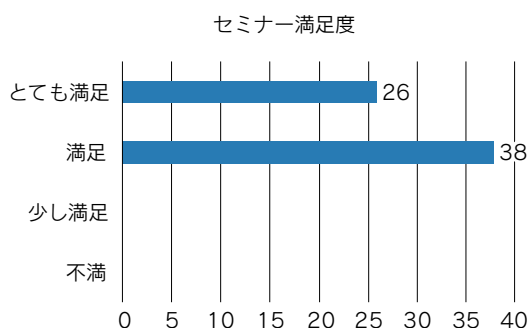
1) セミナーの内容



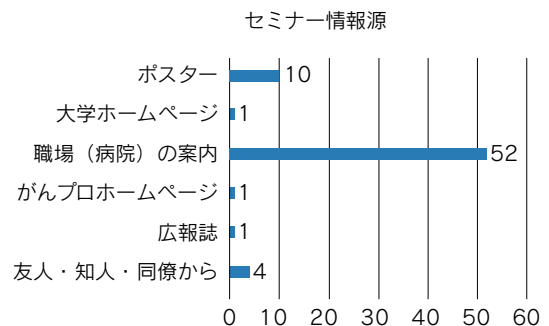
2) セミナーの所用時間



3) セミナーの満足度



4) 情報源（複数回答可）



3. 受講前後の自己評価（n = 64）

参加者に各項目の理解度について4段階で自己評価をしてもらった。

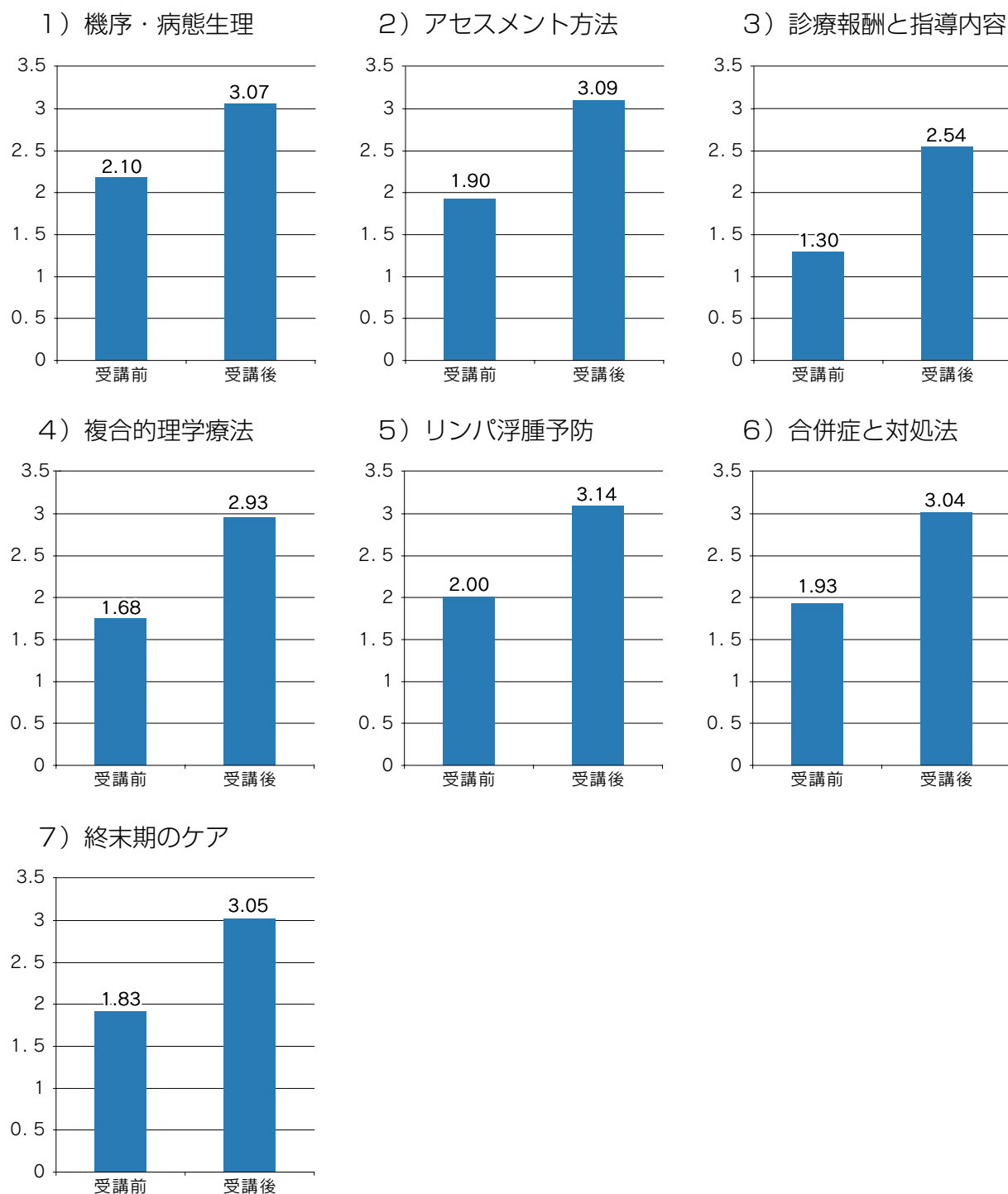
セミナー受講前

よく知っていた：4点、まあまあ知っていた：3点、少し知っていた：2点、全く知らなかった：1点

セミナー受講後

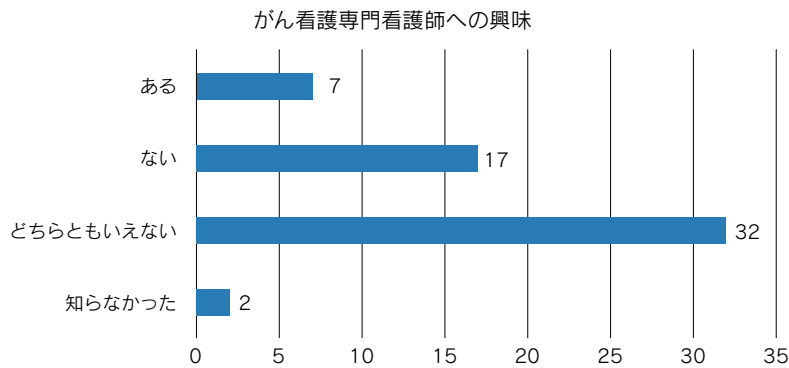
十分習得できた：4点、まあまあ習得できた：3点、少し習得できた：2点、習得できなかった：1点

セミナー受講前後の自己評価の平均点を以下のグラフに示した。どの項目も受講後に評価が上がっていた。

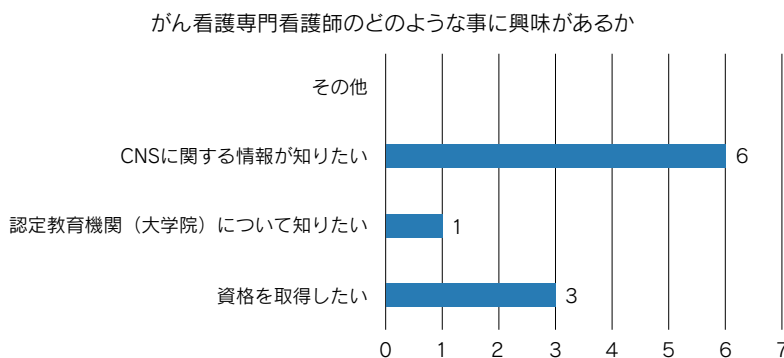


4. がん看護専門看護師について (n = 64)

1) がん看護専門看護師への興味



2) がん看護専門看護師の興味の内容



5. セミナー参加理由 (自由回答：複数回答) () 内は人数を示す

- ・リンパ浮腫に興味・関心があり、知識を増やしたい (18)
- ・浮腫に悩む患者さんのケアに活かすため (22)
- ・無料であったから (1)
- ・終末期患者の浮腫のケアに関心があったため (2)
- ・託児付きの研修だったため (1)
- ・演習があったから (1)
- ・リンパ浮腫外来がなく、きっかけになればと思ったため (1)

6. セミナーへの感想・意見 (自由回答：複数回答) () 内は人数を示す

- ・実践することが出来、丁寧で分かりやすい研修だった (11)
- ・次回のアドバンス編も参加したい (4)
- ・マッサージの圧が軽くて驚いた。実際に足が軽くなるのを実感した (2)
- ・アドバンス編も託児付きにしてほしい (1)
- ・今回の学びを他のスタッフにも伝達していきたい (1)
- ・最後のまとめのスライドがなくて残念だった (1)
- ・下肢リンパ節ドレナージが見つらなかった (1)
- ・緩和ケア病棟に勤めているので、もう少し具体的なケアが知りたいと思った (1)

7. 今後希望する研修内容 (自由回答：複数回答)

- ・静脈性の浮腫、対応について
- ・がん患者、セルフケア、抗がん剤投与看護について

2019年度 看護実践セミナー 臨床で行なうリンパ浮腫のケア アドバンス編を開催して

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

石川県立看護大学 がんプロ企画運営委員

磯 光江

1. 目 的

「臨床で行なうリンパ浮腫のケア アドバンス編」は、基礎編を修了した方々が、さらにリンパ浮腫についての知識と技術を向上させ、日々のケアで実践していただくための研修である。この研修は、参加者一人一人が充実した研修を受けていただくために少人数制としている。ロールプレイでは、患者役と看護師役をそれぞれ演じることで、患者になってケアを受ける側の思いとリンパ浮腫で苦しむ患者へどのような声掛けや対応をしたらよいかを実践に近い状況で考えていただき、実技では、リラクゼーション効果のあるマッサージを全員がセラピストと実践することができる体験型の研修である。現役のセラピストとがん看護CNSから直接レクチャーを受けられるので、毎年参加者からは高い評価をいただいている。

2. 内 容

1) 基礎編の復習

2) グループワーク、ロールプレイ：

リンパ節切除後の乳がん患者からの浮腫の悪化についての相談事例

- ・セルフケア指導
- ・精神的ケア
- ・身体状況のアセスメント

3) 終末期患者のアプローチ：下肢/腹水マッサージと軽圧迫法デモンストレーションと体験

3. 参加者の感想と今後の課題

今年も定員数の17名に参加していただき、アンケート結果も全員から満足以上の評価をいただくことができた。今回の研修でより一層がん看護への関心が強くなり、インテンシブコースに申し込まれた方が4名いらっしまった。アンケート結果より、「毎年リンパドレナージの研修は行ってほしい」、「実技の時間をもっと増やしてほしい」、「実際に臨床でのケアをもっと学びたい場合、次はどのような研修に参加したらよいか教えてほしい」、「リンパ浮腫や終末期の浮腫のある方の手浴、足浴時のケアを企画してほしい」など、実践を重視した要望が多かったことから、臨床でより役立つ研修としていけるようにセラピストの講師の方々と次年度に向けて検討していきたいと考えている。

臨床で行なうリンパ浮腫のケア アドバンス編

福井県済生会病院 看護師

山野 洋子

今回、北陸セラピスト会の繋がりからお声をかけていただき、メイン講師の時山さんの進行のもと、アドバンス編の講師を初めて務めさせていただきました。私は2016年に日本医療リンパドレナージ協会中級・上級セラピストの資格を取得し、所属施設で病棟勤務を行いながら、週に一度、リンパ浮腫看護外来を担当しています。

アドバンス編では始めに、基礎編の振り返りを行った後、リンパ浮腫発症初期の事例でケア内容の検討をグループワークしていただき、その後、その事例に沿って予防指導のロールプレイを行いました。受講者の皆さんは、患者役の時には患者らしく、看護師役の時には普段の姿を思わせる素晴らしい演習となっていたように思います。研修内容は、普段外来で行う指導と殆ど変わらない内容であり、十分に臨床で活かせる内容となっていました。

終末期の浮腫ケアでは、受講者の皆さんに手の当て方や圧加減を一人一人に体験いただき、圧迫用品も自由に触れるよう展示され、直接指導を受けられて良かったとの声もお聞きました。近年、慢性疾患による浮腫も増えてきており、在宅でもニーズが増えています。リンパ浮腫ケアはそういった患者さんにも応用できる技術ですので、今後もこの研修が継続されるよう祈念いたします。

私自身も、臨床で困っている浮腫の患者さんのお役に立てるよう、より一層自己研鑽に励み、知識・技術を深めたいと思います。



臨床で行なうリンパ浮腫のケア アドバンス編 に参加して

国民健康保険 小松市民病院 緩和ケア病棟 看護師
谷 雅美

私は緩和ケア病棟に勤務しており、全身状態の悪化により浮腫が出現した患者さんに接する事が多く、詳しい知識を学びたいとは思っていましたが、忙しさで学べないまま日々が過ぎていきました。患者さん・ご家族の中には浮腫が増悪しているのを不安に感じている事、またご家族の方はいか患者さんに出来ないかと思っているが、その方法が分からないといった事に対してどのように答えて良いのか分からずにいました。そんな時にこのセミナーに参加する機会があり、リンパ浮腫の機序や病態生理、アセスメントの方法を学べたことは終末期の浮腫とは違いがありますが、リンパ浮腫の患者さんが適切なケアを受け、上手く付き合う支援が出来るのではないかと思います。

またこの研修では終末期の方へのリンパマッサージの方法として、手の動かし方や力の入れ具合などを指導していただき、常日頃悩んでいたアプローチ方法を学ぶ事が出来ました。手を添わせ、ゆっくりと触れるように行うことはご家族の方でも行うことが出来ます。ゆったりとしたマッサージの時間は患者さんへの安心感にもつながると思います。安心感は終末期の患者さんには大切であり、今後もこの研修で学んだことを一人でも多くの患者さんに行っていきたいと思っています。



石川県立看護大学 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

2019年度 看護実践セミナー

臨床で行なう リンパ浮腫のケア

参加費
無料

～アドバンス編～

講師

富山県立中央病院 がん看護専門看護師
日本医療リンパドレナージ中級セラピスト

時山 麻美先生

福井県済生会病院 看護師
日本医療リンパドレナージ上級セラピスト

山野 洋子先生

演習内容

- * 事例のグループワーク
- * 患者指導場面のロールプレイ
- * 進行がん・終末期の浮腫へのアプローチ

本セミナーは
修了証を発行します

対象

医療職者18名 2016年度以降、本学で開催された
リンパ浮腫セミナーに参加経験のある方

申込締切：2019年10月15日(火)

2019年

10月26日(土)

WEBにてお申し込み下さい。
右記のQRコードからアクセスできます。
詳しくは裏面をご覧ください。



9:30～15:30 (受付 9:15～)

会場

石川県公立大学法人

石川県立看護大学 教育研究棟2階 成人・老年看護学実習室

主催：超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

（石川県立看護大学・金沢大学・金沢医科大学・福井大学・富山大学・信州大学 共同企画事業）

【お問い合わせ先】 石川県公立大学法人 石川県立看護大学

〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地

TEL 076-281-8300(代) E-mail: ganpro-j@ishikawa-nu.ac.jp (担当:岡山)



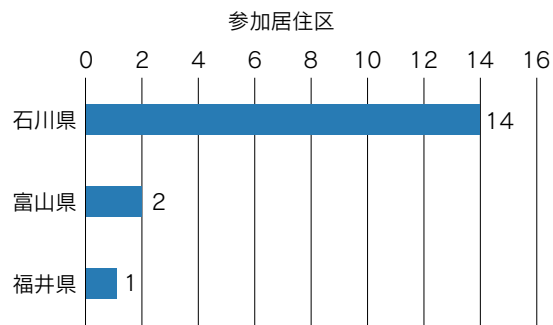
臨床で行なうリンパ浮腫のケア アドバンス編 アンケート集計結果

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

担当 岡山 のぞみ

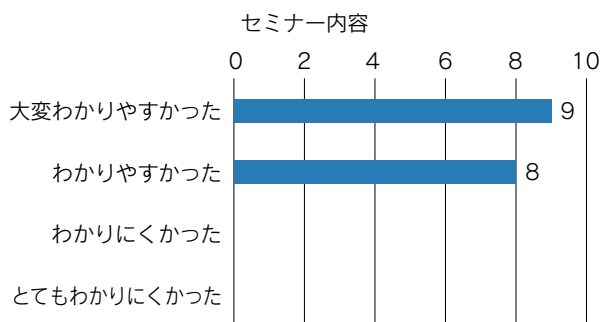
参加者は17名、アンケート回収者は17名（回収率100.0%）であった。

1. 参加者の居住地区（n=17）

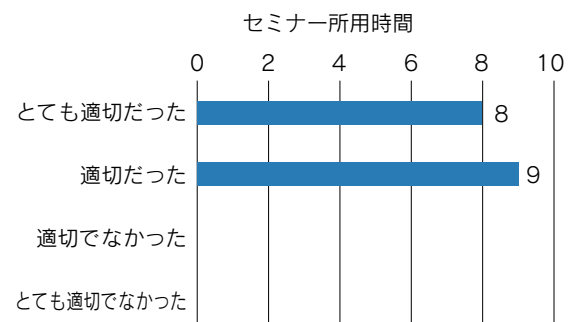


2. セミナーの内容等について（n=17）

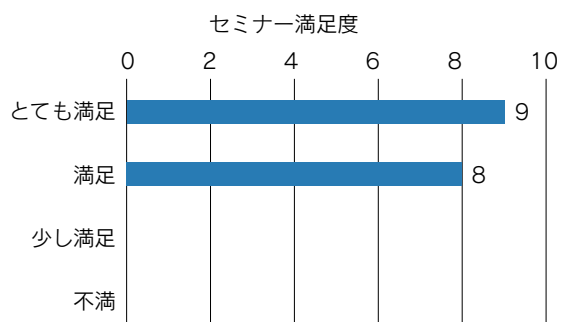
1) セミナーの内容



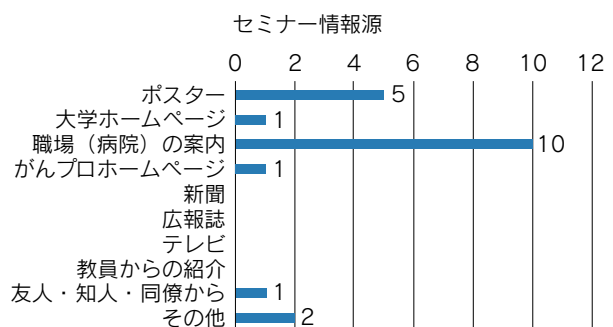
2) セミナーの所要時間



3) セミナーの満足度



4) 情報源（複数回答可）



3. セミナー参加理由（自由回答：複数回答）（ ）内は人数を示す

- ・終末期の患者さんへの具体的なケアを知りたかったため (4)
- ・基礎編を受講し、より実践的な方法を知りたくなったため (3)
- ・リンパ浮腫の患者さんへの苦痛を緩和するために、知識・技術を向上させたいと思ったため (3)
- ・リンパ浮腫指導、ケアの経験を積みたいから (2)
- ・がん看護専門看護師、認定看護師に興味を持っているから (2)

4. 実技・ロールプレイの感想（自由回答：複数回答）（ ）内は人数を示す

- ・他の方のロールプレイを見て、声のかけ方、トーン、説明の進め方など、とても勉強になった (5)
- ・ロールプレイでは、自分の足りない部分、見直さなければならぬことを改めて実感した (2)
- ・ロールプレイで各々の役になりきることで、それぞれの立場でのイメージが付きやすく、患者さんがどこに疑問を持って、不安や心配に感じるか等を知ることが出来た (5)
- ・他者とのかわり方や自分の特徴を知ることにつながった (1)
- ・実技の時間をもう少し増やして欲しい (2)

5. セミナーへの感想・希望（自由回答：複数回答）（ ）内は人数を示す

- ・基礎編、アドバンス編と内容を深めることが出来て良かった (3)
- ・実技が非常に分かりやすかったので、実技の時間をもっと増やして欲しい (2)
- ・実践に繋がる研修であり、今回学んだことを活かしていきたい (2)
- ・セラピストの方々に指導していただき、とても分かりやすく有意義だった (2)
- ・今回リンパ浮腫を細かく指導してもらったことで興味が沸き、さらに学習していこうと思った (1)
- ・実際に臨床でのケアをもっと学びたい場合、次はどのような研修に参加したらよいか教えてほしい (1)

6. 今後希望する研修内容（自由回答：複数回答）

- ・リンパ浮腫や終末期の浮腫のある方の手浴、足浴時のケア
- ・定期的にリンパドレナージの研修を行ってほしい
- ・がん関連の研修

ゲノム医療の現状と薬物間相互作用を知り、現場に活かそうを開催して

金沢大学医薬保健研究域薬学系・臨床薬学研究室
菅 幸生

1. 開催概要

日 時: 2019年10月6日 (日)

場 所: ホテル金沢 5階 アプローチ

時 間: 10:00~12:30

対象者: 医療従事者(大学院生含む)

第一部 「がんゲノム医療の現状と看護上の倫理的課題」

東邦大学 看護学部 がん看護学研究室 教授 村上 好恵 先生

第二部 「抗がん剤のPK/PDと相互作用」

東京大学医学部附属病院 薬剤部 副薬剤部長 大野 能之 先生

2. 講演・質疑応答のまとめ

2019年10月6日(日)にホテル金沢5階アプローチで、北信がんプロ公開講座「ゲノム医療の現状と薬物間相互作用を知り、現場に活かそう」が開催された。北陸3県の看護師、薬剤師など約50名が参加した。

第一部では、東邦大学看護学部がん看護学・教授の村上好恵先生から、「がんゲノム医療の現状と看護上の倫理的課題」についての講演があった。2019年6月より、がん遺伝子パネル検査の保険適応が認められるなど、がんゲノム医療を取り巻く環境は、これから目まぐるしく変化することが予測される。この状況に対応するためには、常に最新情報の収集に努めることが重要であると考えられた。

第二部では、東京大学医学部附属病院薬剤部・副薬剤部長の大野能之先生から、「抗がん剤のPK/PDと相互作用」についての講演が行われた。抗がん剤を含め薬剤を安全・有効に使うためのポイントの一つとして、相互作用を回避することが挙げられた。薬剤師と看護師が協力して相互作用を確認することで、薬物療法の安全性が向上することが期待される。

看護師・薬剤師が合同で公開講座を開催するのは三回目であるが、回数を重ね、お互いの職能を深く理解することは、がん患者のケア・サポートの充実に繋がるものと考えられた。



がんゲノム医療の現状と 看護上の倫理的課題

東邦大学 看護学部 がん看護学研究室

村上 好恵



がんゲノム医療の現状

看護上の倫理的課題

がんゲノム医療:ゲノム情報に基づいたがんの医療

- ◆ 同じ「肺がん」であっても、原因となる遺伝子は様々であり、対応する薬剤も異なる
- ◆ ゲノム医療では、原因となる遺伝子を特定して、より効果が高い治療薬を選択することが可能となり、患者一人一人にあった「個別化医療」につながる

プレジジョン メディシン

がんゲノム医療の現状

看護上の倫理的課題

がん遺伝子パネル検査を受けるための条件

1. がんであることが病理診断されている(血液腫瘍は除く)
2. 手術できないがんや再発したがん、すでに抗がん剤や放射線(標準治療)で何種類かの治療を行っている方やすべての治療が終わってしまった方
3. 歩行可能で日常生活に支障がない(PSが0または1)
4. 手術や生検で採取したがんの組織が保管してある

* タイミングが遅くならないように、早めに情報を集め、検査を行う

がんゲノム医療の現状

看護上の倫理的課題

がん遺伝子パネル検査の2次的所見/偶発的所見 (secondary findings/ incidental findings)

全ゲノム解析、全エクソン解析、パネル検査など一度に多くの遺伝子を調べる機会が多くなった。

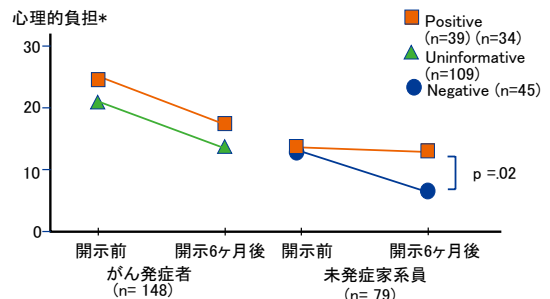
そのため、検査の目的とは異なることで検査結果
(secondary findings/ incidental findings) が得られることがある。

その情報が、その方の健康に影響する重要な情報だった場合、どのように対応したらよいのか？

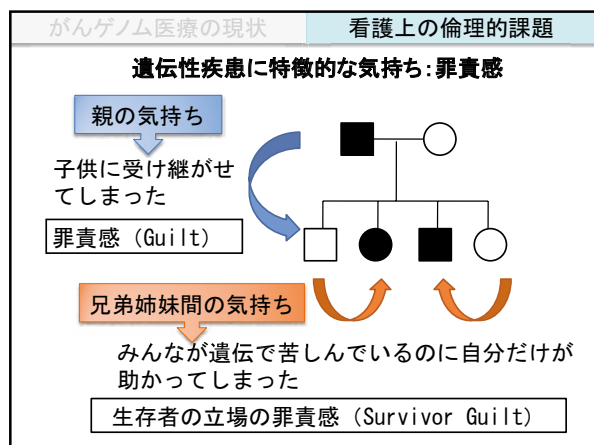
がんゲノム医療の現状

看護上の倫理的課題

BRCA1検査の結果開示後の心理的影響



based on the Impact of Events Scale (range: 0-75)
(IES: 0-8: PTSD陰性、9-19: PTSD境界領域、20-: PTSD陽性)
(Schwartz, et al.: JCO 20:514-20, 2002)

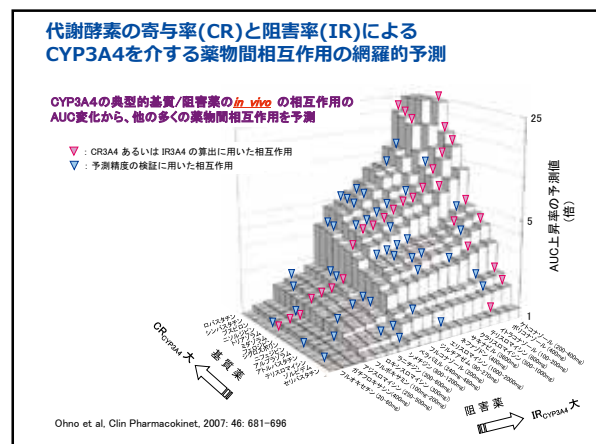
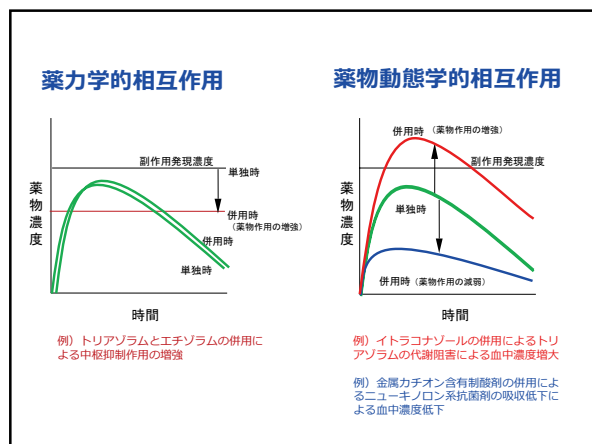
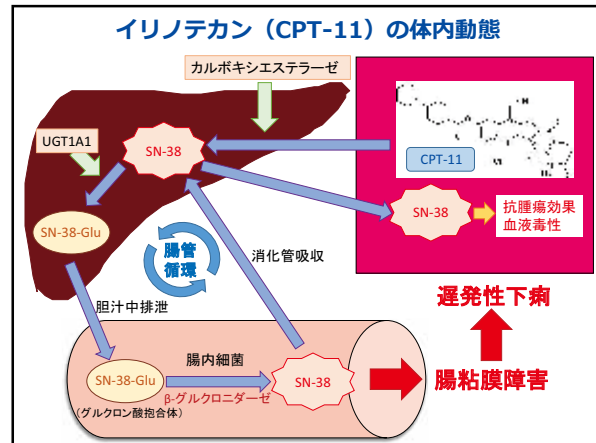
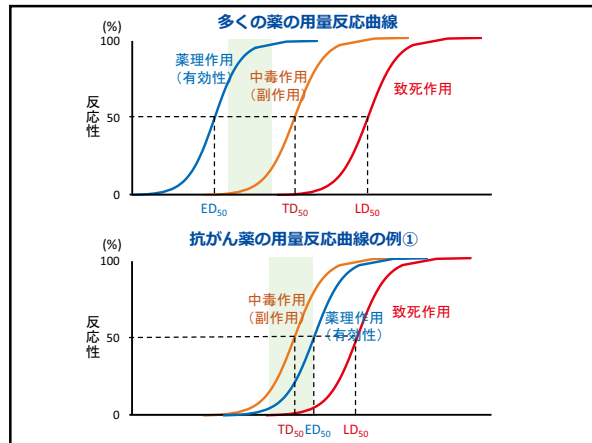


がんゲノム医療の現状	看護上の倫理的課題
看護師の役割	
「看護師とは、厚生労働大臣の免許を受けて、傷病者若しくはじよく婦に対する療養上の世話又は診療の補助を行うことを業とする者をいう。」 (保健師助産師看護師法) 診療の補助: 患者や家族に必要な診療を「つなぐ」役割 ◆ 多科受診がスムーズにいくように調整 ◆ 多科の診療科医師の説明に対する理解を促進する(患者や家族がいまいな理解をしていないか、不明な点はないか、再度医師から説明が必要であれば、その機会をもてるように調整する) 療養上の世話: 生涯にわたる病気との付き合い方を支援する ◆ 定期的に受けなければならない検査、時に必要となる手術療法、薬物療法、そして放射線療法などのがん治療を滞りなく遂行できるように支援 ◆ 生活を送る中で、自己管理が必要なことへの指導 ● 「遺伝性」ゆえの精神的動揺への対応(患者や家族が、何に悩んでいるのかを聴き、解決するためにはどのような方路があるのかを一緒に考えていくことから始めればよい)	

抗がん剤のPK/PDと相互作用

東京大学医学部附属病院 薬剤部

大野 能之



AUC変化の予測の区分に基づく相互作用の注意喚起の提案

(PISCS: Pharmacokinetic Drug Interaction Significance Classification System)

阻害薬 IR	基質 CR						区分	スタチン O ₃ 誘導薬	ペンシジ アゼピシ
	0.9< very selective (VS)	0.8-0.99 selective (S)	0.7-0.79 slightly selective (SS)	0.5-0.99 moderate (M)	0.3-0.49 weak (W)	0.1-0.29 very weak (VW)			
0.9< very strong (VS)	13.9	5.4	3.5	2.4	1.6	1.2	I	注意	注意
0.8-0.99 strong (S)	5.4	3.7	2.8	2.1	1.5	1.2	II	注意	注意
0.7-0.79 slightly strong (SS)	3.5	2.8	2.3	1.8	1.4	1.2	III		
0.5-0.99 moderate (M)	2.4	2.1	1.8	1.6	1.3	1.1	IV		
0.3-0.49 weak (W)	1.6	1.5	1.4	1.3	1.2	1.1	V	なし	なし
0.1-0.29 very weak (VW)	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	1.0	VI		
							VII		

表中の数値は、各分画内のAUC上昇比の予測平均値^{a)}を示す

$$\frac{1}{1-CR \cdot IR} dCR \cdot dIR / S$$

実数 a, bはCRの境界の値、c, dはIRの境界の値、Sはa, b, c, dによる分画の面積

Hisaka et al, Clin Pharmacokinet, 48: 653-66, 2009

分子標的治療薬（経口薬）と

CYP3A4阻害剤・誘導剤

✓多くはCYP3A4による代謝の寄与

✓CYP3A4阻害剤との併用により血中濃度が上昇

✓CYP3A4誘導剤との併用により血中濃度が低下

✓CYP3A4の概ねの寄与の程度(CR):

CR0.9以上：エベロリムス、CR0.8-0.9：ダサチニブ、CR0.7-0.8：クリゾチニブ、ラパチニブ、

CR0.5-0.7：イマチニブ、ゲフィチニブ、エルロチニブ、ニロチニブ、アキシチニブ

4

FD・SD

研修

- 43 -

石川県立看護大学 / 金沢大学医薬保健研究域薬学系
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)

公開講座

ゲノム医療の現状と 薬物間相互作用を知り、 現場に活かそう

第Ⅰ部 「がんゲノム医療の現状と看護上の倫理的課題」 10:00~11:10

講師 村上 好恵 先生 東邦大学 看護学部 がん看護学研究室 教授

座長 牧野 智恵 石川県立看護大学 成人看護学領域 教授

第Ⅱ部 「抗がん剤のPK/PDと相互作用」 11:20~12:20

講師 大野 能之 先生 東京大学 医学部附属病院 薬剤部 副薬剤部長

座長 菅 幸生 金沢大学 医薬保健研究域薬学系 准教授 臨床薬学研究室

質疑応答 12:20~12:30

参加者には **修了証** を発行します

- ・「がんライフケアコース」
「がんゲノム多職種連携入門コース」
の修了要件に含まれます。
- ・「石川県病院薬剤師会生涯認定制度 (1単位)」、
「日本病院薬学認定薬剤師制度 (1単位)」に申請中です。

定員
150名

参加費
無料

2019年 **10月6日** 日

会場 / ホテル金沢(5階 アプローチ)

時間 / 10:00~12:30 (受付9:30~)

〒920-0849 石川県金沢市堀川新町1番1号 TEL:076-223-1111

【お申し込み・お問い合わせ】 石川県公立大学法人 石川県立看護大学 (担当:岡山)

〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地 TEL:076-281-8300

締切 2019年9月27日(金) ※定員になり次第、締め切らせて頂きます。

※参加対象者は医療従事者(大学院生含む)です。

※駐車場に限りがありますので、公共交通機関のご利用をお願いします。

※裏面もご確認ください。

申し込みはQRコードまたは
裏面をご確認ください。



主催：超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)

(石川県立看護大学・金沢大学・金沢医科大学・福井大学・富山大学・信州大学 共同企画事業)

共催：石川県病院薬剤師会

後援：北國新聞社

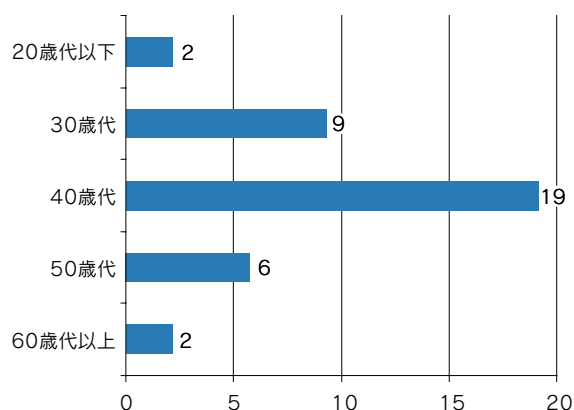
ゲノム医療の現状と薬物間相互作用を知り、現場に活かそうアンケート集計結果

金沢大学 菅 幸生

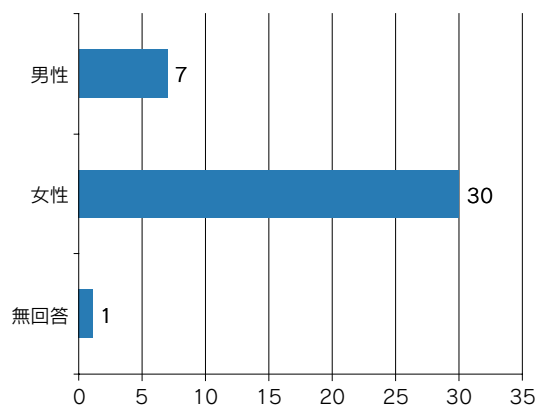
参加者は50名、アンケート回収者は38名（回収率76%）であった。

1. 参加者について（n=38）

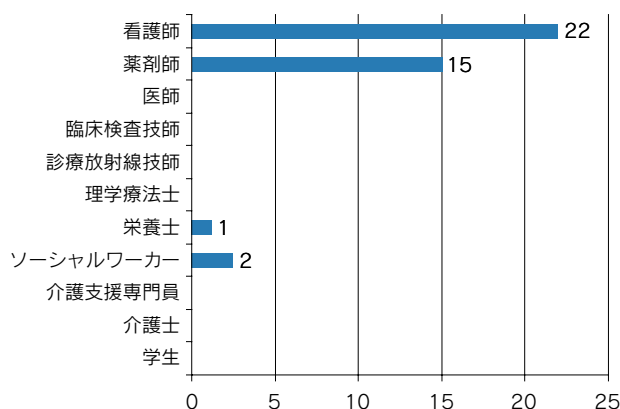
1) 年 齢



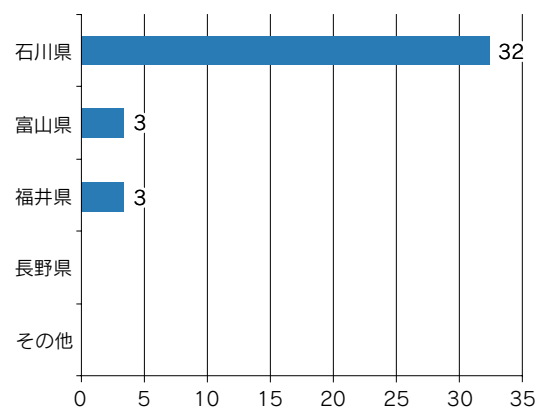
2) 性 別



3) 職 種



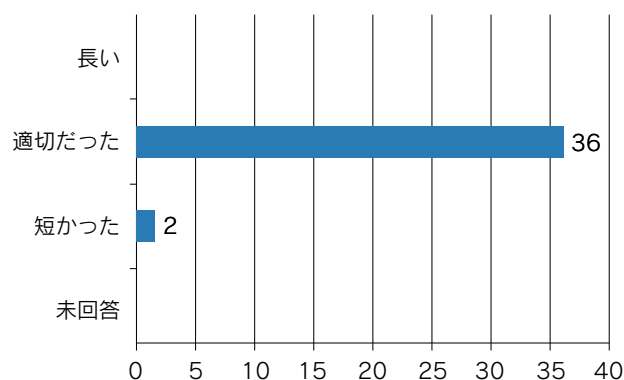
4) 居住区



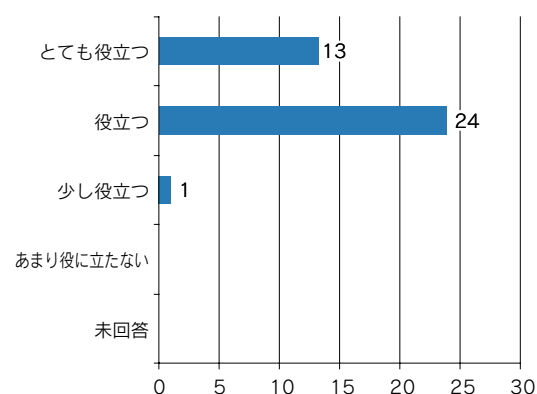
2. 第一部「がんゲノム医療の現状と看護上の倫理的課題」

参加した感想について（n=38）

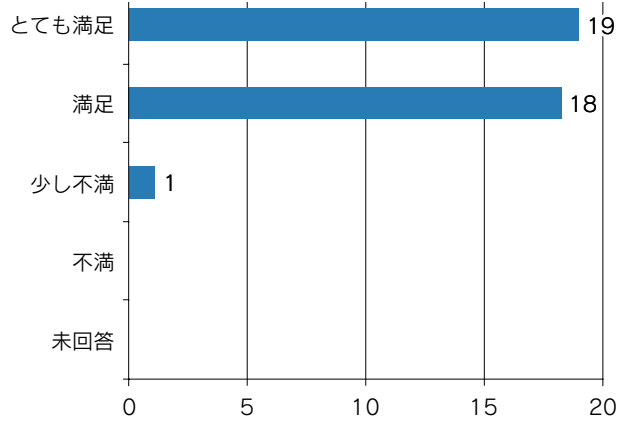
1) 所要時間



2) 今後の仕事に役立つと思いますか



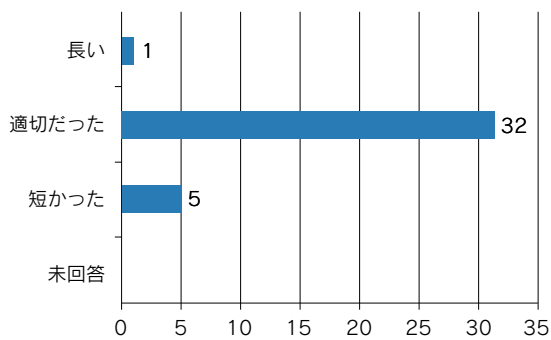
3) 講演の内容



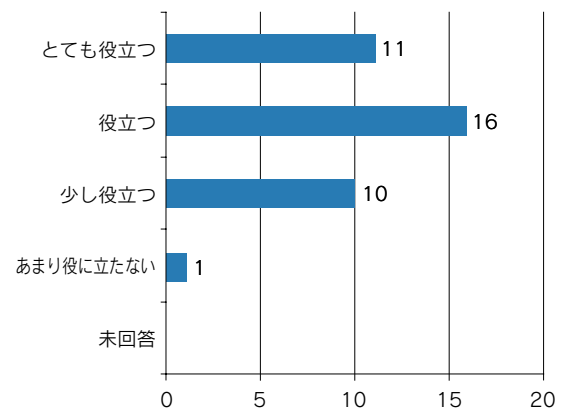
3. 第二部「抗がん剤のPK/PDと相互作用」

参加した感想について (n=38)

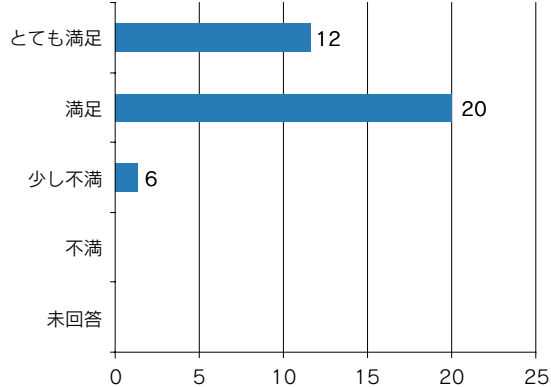
1) 所要時間



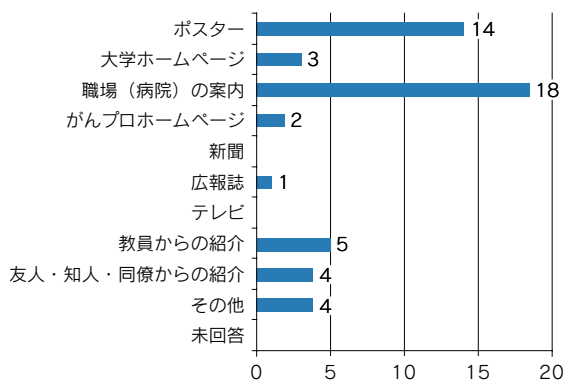
2) 今後の仕事に役立つと思いますか



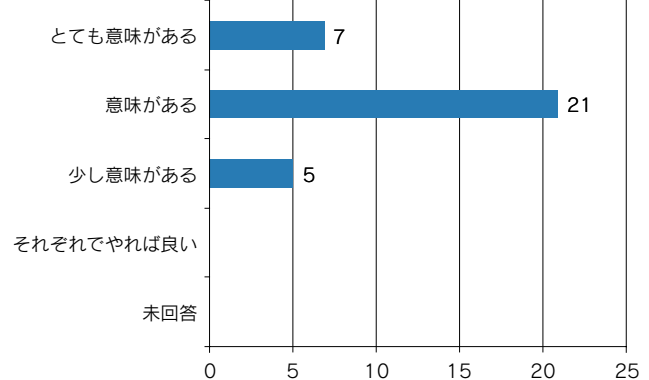
3) 講演の内容



4. 情報源について (n=38)



5. 合同の講演会について (n=38)



6. 本日の講演会の参加理由についてお聞かせください

- ・がんゲノムについて関心があり、知識を得たかった (11名)
- ・ゲノムに関する知識がなく、詳しく学びたいと思ったため (6名)
- ・ゲノム医療に携わることが多いため (2名)
- ・講演内容が最近話題になっているテーマであり、学びたいと思ったため (3名)
- ・職場にゲノム外来が開設され、関心があった (1名)
- ・がん治療を受ける患者さんの、看護実践や支援に役立てたいと思ったため (1名)
- ・親が病気になった時に遺伝子検査を受けた知り合いがいたので、詳しく知りたいと思ったため (1名)

7. その他、本日の講演に関するご意見ご感想をお聞かせください

- ・大変分かりやすく、知識が深まった (5名)
- ・難しい箇所もあったが興味がわき、今後も学んでいきたいと思った (3名)
- ・看護師と薬剤師の連携事項があると良いと思った (1名)
- ・薬剤師の視点から看護に (実際に患者の投与に関わる際、投与後観察する際) 必要な視点を、具体的にどう連携できるか見えて良かった (1名)
- ・今後意志決定者が多様になる中で、ICがますます難しくなり、私たちも人としてのスキルを磨くことが必要であると思った (1名)
- ・薬剤のPK/PDについて分かりやすかったが、どのように臨床に活かせば良いか分からなかった。
- ・商品名 (薬剤) に慣れているので、提示してもらえたら良かった (1名)
- ・医療者だけでなく、一般の人にも広く伝わっていくべき課題であると感じた (1名)
- ・がんゲノム医療は難しいと感じる部分が多かったが、とても理解しやすく身近に感じる事が出来た (1名)
- ・薬物間相互作用について、普段の業務でより意識しなければならないと思うきっかけになった (1名)
- ・質疑応答を各々で分けた方が良いと思った (1名)
- ・薬物動態の話がもっと聞きたかった (1名)

8. 今後どのような研修会や講演を希望されるかお聞かせください

- ・倫理カンファレンスについて知りたい (1名)
- ・CNSの実践について事例を通したケアを知りたい (1名)
- ・ゲノム医療と倫理について再度聞きたい (1名)
- ・薬学部と看護部合同の講演会は良かったので、また企画していただきたい (1名)
- ・多職種連携の分野について知りたい (2名)

意見交換会 CNS高度実践看護のあり方

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

石川県立看護大学 がんプロ企画運営委員

今方 裕子

今年度の第一回CNS関係者によるがん看護事例検討会は、北陸CNS会との共催で7月27日(土)に本学で開催されました。スーパーバイザーとして、北里大学病院のがん看護CNSでいらっしゃる近藤まゆみ先生をお招きしました。その他にも県内外からがん看護及び老人看護、災害看護のCNSやCNSの教育者、CNS候補生22名の方が参加して下さいました。第一部では今年度がん看護CNSを受験予定の2名から、コンサルテーションやコーディネーションについての事例提供があり、スーパーバイザーの先生の助言のもと、事例検討が行われました。その後、第二部では「CNSの高度実践のあり方について」～日々の悩みを語り合おう～ というテーマで意見交換会が行われました。まず北陸CNS会会長の久保さんより日本専門看護師協議会の専門看護師ラダーの紹介がありました。その後、臨床でCNSが実際に遭遇した困難事例の紹介の後、そのような場面に遭遇した場合、どのように対処すればよいかについてCNS間で意見交換が行われました。CNSは医師、緩和ケアチーム、多職種との連携・協働について日々悩みながら活動しており、各施設一人で活動しているCNS、複数で活動しているCNSの違いや情報共有のあり方についても共有する機会となりました。今後もCNS同士が自らの高度実践の質保証や、活動の場の拡大を図る場として北陸CNS会の意見交換会などの企画を継続していきたいと思います。



CNS対象 がん看護事例検討会を開催して

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

石川県立看護大学 がんプロ企画運営委員

瀧澤 理穂

7月27日（土）及び10月6日（日）にCNS関係者によるがん看護事例検討会を開催した。

第1回は、スーパーバイザーとして北里大学病院 がん看護CNSの近藤まゆみ先生をお招きした。県内外からがん看護及び老人看護、災害看護のCNSやCNSの教育者、計22名の方に参加いただいた。今年度がん看護CNSを受験予定の2名からコンサルテーションやコーディネーションに関する実践について事例提供があり、スーパーバイザーの先生の助言のもと、活発なディスカッションが行われ、有意義な会となった。

第2回は、がん看護CNS、CNS受験予定者、CNSコース在籍中の大学院生、CNS教育者計11名の方に参加いただいた。うつ病の既往があるがん患者に対しての予後告知や退院調整に関する事例提供があり、第2回では新たな試みとして、事例に対してがん看護CNSとして自分ならどのように現象を捉え、どのような方略に基づきアプローチしていくかについて、グループワークが行われた。参加者の経験や施設の垣根を越えて、がん看護CNSならではの意見を共有する貴重な機会となった。



石川県立看護大学

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)

2019年度 ライフステージ事例検討会

第1回 CNS関係者による がん看護事例検討会

CNS関係者を対象としたがん看護事例検討会を
スーパーバイザーをお招きし下記の日程で開催致します。

参加資格

CNSの方(どの領域の方でも)、今後CNS
受験予定の方、CNSコースの大学院生

日時・場所

7月27日(土) 14:00～16:30

場所：石川県立看護大学 3階 会議室

スーパーバイザー：北里大学病院
がん看護専門看護師 近藤 まゆみ 先生

第1部

14:00～ 事例検討会

第2部

15:30～ 意見交換会

「CNSの高度実践のあり方について」

～日々の悩みを語り合おう～

お問い合わせ

石川県立看護大学 がんプロ担当(岡山)

TEL: 076-281-8300(代表)

E-mail: ganpro-j@ishikawa-nu.ac.jp

共催：北陸CNSの会

2019年度 ライフステージ事例検討会

第2回

CNS関係者による がん看護事例検討会

CNS関係者を対象としたがん看護事例検討会を
下記の日程で開催致します。

参加資格

- ・CNSの方(どの領域の方でも)
- ・今後CNS受験予定の方
- ・CNSコースの大学院生

日時・場所

10月6日(日) 13:30～15:00

場所：ホテル金沢 6階 ミーティングルーム

お問い合わせ

〒929-1210

石川県かほく市学園台1丁目1番地

石川県立看護大学 がんプロ担当(岡山)

TEL: 076-281-8300(代表)

E-mail: ganpro-j@ishikawa-nu.ac.jp

CNS関係者によるがん看護事例検討会参加者アンケート 集計結果

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

担当 岡山 のぞみ

第1回（7月27日開催）参加者は計22名であった。

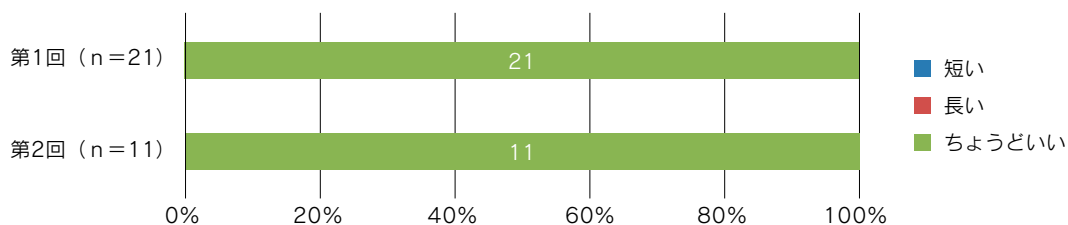
アンケート対象者21名にアンケート用紙を配布、21名より回答を得た（回収率 100.0%）

第2回（10月6日開催）参加者は計11名であった。

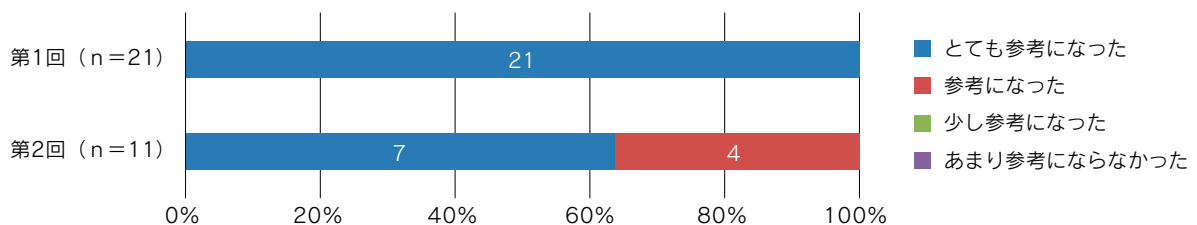
アンケート対象者11名にアンケート用紙を配布、11名より回答を得た（回収率 100.0%）

1. 事例検討会の評価について

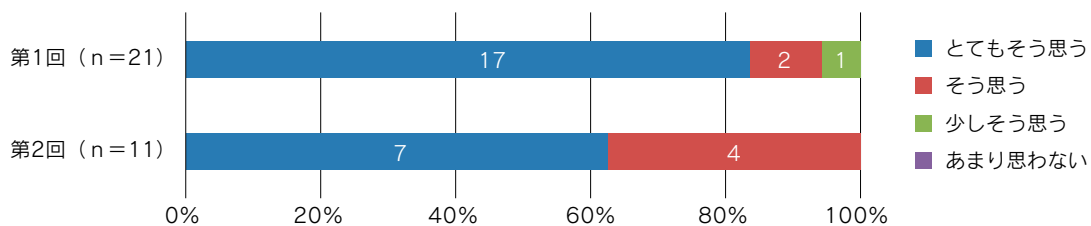
1) 所要時間はどうか



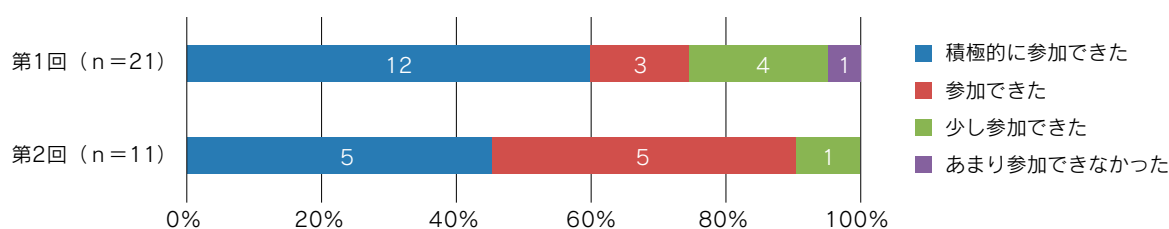
2) 事例検討会の内容は参考になりましたか



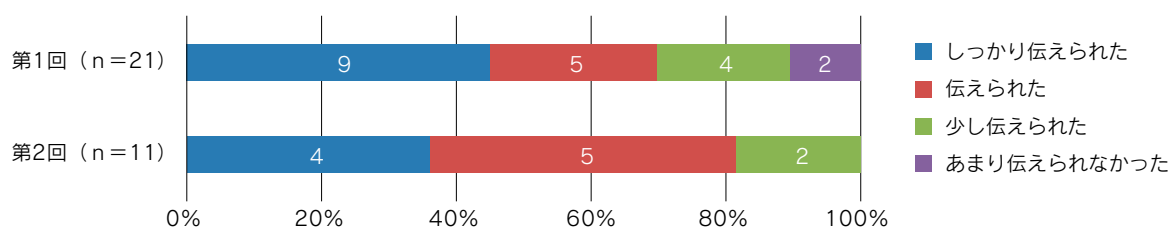
3) 日頃のがん看護実践を振り返る機会となりましたか



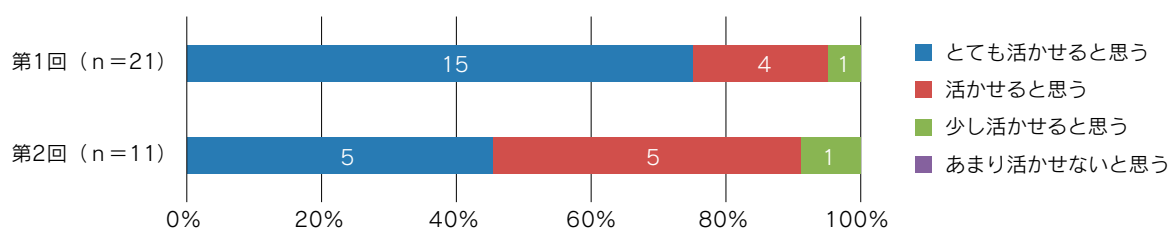
4) 討議には積極的に参加できましたか



5) 自身の経験を踏まえて意見など伝えることができましたか



6) 今後のがん看護実践に活かせると思いますか



2. 検討してみたい事例のテーマ・内容について

- ・高齢がん患者の事例
- ・AYA世代の看護介入
- ・遺伝子検査を受ける患者への看護
- ・意思決定支援に関すること

3. 自由記載

- ・CNSとしての深い部分を感じ取ることが出来る良い機会だった。
- ・悩んだ事例の共有がとても勉強になったので次回も行いたい。
- ・みんなで活発に意見交換が出来て良かった。
- ・CNSとしての視点を改めて学ぶことが出来た。
- ・事例中心だとその他の内容が聞けず、時間が足りないと感じた。
- ・それぞれのCNSが抱える悩み事を聞けると良かった。

第39回 日本看護科学学会学術集会
平田オリザ先生、西村ユミ先生の対談「人間を理解することの限界と挑戦
～現象学的視点からの他者理解を考える～」を聴講して

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

石川県立看護大学 がんプロ企画運営委員

瀧澤 理穂

対談は、「患者の立場に立って理解することが可能か」という問いから始まった。よく考えると、これまで別の人生を歩み、ましてや疾病に罹患していない自分が患者を理解できるはずがない。平田先生は、同じ立場に立てるはずがないという前提で、自分と相手の接点を見つけながらコミュニケーションをとることが重要であり、そのためにも人生を豊かにする教養を身につける必要性を述べていた。

また他者理解の鍵として「対話」というキーワードが挙がっていた。対話は「両者の異なる価値観のすり合わせ。差異から出発するコミュニケーションの往復に重きをおくもの」である。近年では、対話中の頷きの回数やリズムが相手に与える印象や、コミュニケーションロボットの応答性を高める研究が進められ、他者理解に向けて技術的な挑戦が行われている。

人間が他者を完全に理解することには確かに限界がある。しかし、対談を通してそれは単なるマイナスではなく、些細な共通性を見つけ理解できる部分が増えていく喜びや、両者の差異の中から新しい価値観が見出され発展していく無限の可能性を秘めているように感じられた。他者理解の限界に絶望するのではなく、他者との違いを尊重し、それを発展させる対話を通して、他者理解に挑戦し続けたい。

第39回 日本看護科学学会学術集会に参加して

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

石川県立看護大学 がんプロ企画運営委員

今方 裕子

第39回日本看護科学学会学術集会は、11月30日（土）、12月1日（日）に開催された。中でも2日目に開催されたパネルディスカッションI「時空を超える高度看護実践能力」では、2065年には高齢人口は変化しないにも関わらず生産年齢人口が6割にも減少し、超高齢化が深刻化することの問題提起があった。そして地域、在宅で病気を抱えた多くの高齢者が生活することが予測される中、高度実践看護師はどのように能力を発展させていくべきかについて、演者の先生方の講演とディスカッションを通して学ぶことができた。具体的な提案として、超高齢化時代に、診療看護師（NP）や専門看護師（CNS）などの高度実践看護師を、地域ナースステーション（仮称）に登録し、二次医療機関や所属施設から、在宅やルーラル地域へ派遣できるようなシステムを作っていくべきであるという意見や、教育システムの再構築の必要性についてディスカッションがされた。また、実際に地域の診療所で医師がNPやCNSと協働して、フィジカル面を丁寧にアセスメントし治療的介入、看護的介入をされている実践例の提示もされていた。このパネルディスカッションを通して、高度実践看護を今後の社会情勢に合わせてどのように変化、対応していくべきかについての示唆が得られ、NPやCNSの活動フィールドや役割開発について考える機会となった。

第39回 日本看護科学学会学術集会

The 39th Annual Conference of Japan Academy of Nursing Science

ひと
ヒトと人間の科学を看護へ
～時空を超える我々を知り、
看護学を別次元へ発展させよう～

2019
11/30 土 12/1 日

会長：石垣 和子（石川県立看護大学 学長）

総合受付 ◆ もてなしドーム地下広場

会 場 ◆ 石川県立音楽堂

ANA クラウンプラザホテル金沢
ホテル金沢

事前参加登録締切

2019年9月20日(金)

※詳細は、学術集会ウェブサイトをご覧ください。



託児室(事前予約要)



お茶席をご用意して、皆様をお待ちしております。

会長講演	ひと ヒトと人間の科学を看護へ 石垣 和子（石川県立看護大学）
特別講演	知られざるヒトの適応機構の解明 ーフィールドワークからの挑戦ー 梅崎 昌裕 先生（東京大学大学院）
教育講演Ⅰ	看護研究と実践・教育の環境づくり Ardith Doorenbos 先生（ワシントン大学）、真田 弘美 先生（東京大学大学院）
教育講演Ⅱ	がんゲノム新時代における看護の役割 村上 好恵 先生（東邦大学）
対 談	人間を理解することの限界と挑戦 ー現象学的視点からの他者理解を考えるー 平田 オリガ 先生（制作家/大阪大学 CO デザインセンター）× 西村 ユミ 先生（首都大学東京）
厚生労働省 特別報告会	特定行為研修制度の現状
JANS 企画 シンポジウム	看護行為の開発ならびに標準化のプロセス(仮)
JANS 企画 市民フォーラム	北陸の伝統発酵食品の文化と健康 榎本 俊樹 先生（石川県立大学）、大友 佐俊 先生（料亭 大友楼 当主）
JANS 企画 ナースینگ・ サイエンスカフェ	多様な場で働き方を魅(見)せられる看護職の可能性

◆ 一般演題：口演、示説 ◆ 交流会 ◆ N-AGORA (Nursing Opinion Agora)
◇ ランチョンセミナー ◇ 懇親会

合同シンポジウムⅠ
(日本生理人類学会)

適応と健康：現代社会における人間の健康とは？

安河内 朗 先生（日本生理人類学会）、樋口 重和 先生（九州大学大学院 / 日本生理人類学会）
石垣 和子（石川県立看護大学）

合同シンポジウムⅡ
(文化看護学会)

時空を超える家族文化と看護

特別講義：三部 倫子 先生（石川県立看護大学）
牟田 和恵 先生（大阪大学大学院）、法橋 尚宏 先生（神戸大学大学院 / 文化看護学会）
岩本 大希 先生（WYL 株式会社 / ウィル訪問看護ステーション江戸川）

シンポジウム

環境の変化が人間の代謝機能に及ぼす影響と今後の食のあり方

奥村 仙示 先生（徳島大学大学院）、茅山 加奈江 先生（石川県国保団体連合会）、
櫻井 千佳 先生（フリーランス栄養士・元ちゃんハウス理事）

パネル
ディスカッションⅠ

時空を超える高度看護実践能力

田村 恵子 先生（京都大学大学院）、春山 早苗 先生（自治医科大学）、
島田 珠美 先生（川崎大師訪問看護ステーション）
指定発言：藤沼 康樹 先生（日本医療生協連合会家庭医療学開発センター / 生協訪問診療所）

パネル
ディスカッションⅡ

**ニューロサイエンスの現在・未来
ーヒトと人間の科学の看護における融合ー**

大久保 暢子 先生（聖路加国際大学大学院）、才藤 栄一 先生（藤田医科大学）、
鎌倉 やよい 先生（日本赤十字豊田看護大学）

※プログラムは変更されることがあります。

学術集会ウェブサイト：<http://jans2019.jp/>

学術集会事務局（第39回日本看護科学学会学術集会 本局）
石川県立看護大学 〒929-1210 石川県かほく市学園台 1 丁目 1 番地

運営事務局（第39回日本看護科学学会学術集会 運営事務局）
株式会社 ネクステージ 〒920-0059 石川県金沢市示野町南 45 番地
TEL:076-216-7000 FAX:076-216-7100
E-Mail ◇学術集会全般 jans39@nex-tage.com
◇参加登録 jans39-sanka@jans2019.jp

学術集会 WEB
QR コード



後援：石川県、金沢市、かほく市、公益社団法人石川県看護協会

小児・AYA世代のがんを知る

富山大学附属病院 がん看護専門看護師
樋口 麻衣子

2019年11月17日（日）に長野で北信がんプロ合同の市民公開講座が開催されました。テーマは「小児・AYA世代のがんを知る」です。2018年に閣議決定された第3期がん対策推進基本計画の中に、国が取り組むべき施策のひとつとして初めて「AYA世代のがん患者に対する支援体制の構築」が掲げられました。今回、初めて北信がんプロでも小児・AYA世代のがんに関する公開講座が開催され、私は修士論文で取り組んだ「AYA世代の子宮がん経験者の困難」についてのインタビュー結果を基に発表しました。小児・AYA世代のがんは、成人後期以降のがんと比べると患者数が少ないため、支援の在り方についてまだまだ共有される機会が少ないのが現状です。今回は、北信地域における小児・AYA世代のがんの現状やこの年代特有の問題、実際の支援の活動について学び、共有する機会となりました。北信がんプロでの繋がりをきっかけに各地域の支援の現状や活動を知り、自分の地域にも繋げていきたいです。



もしがんになったら
どうすればいい?



ア ヤ
小児・AYA世代のがんって?

小児・AYA世代の がんを知る

(15歳未満)

(15歳から39歳まで)

どんな病気なの?



参加無料
申込不要

定員 200名

患者さんの抱える問題を考えてみよう!

小児(15歳未満)・AYA(15歳から39歳まで)世代の
がんの特徴を学び、
患者さんの抱える問題を考えてみませんか。

予防は
できるの?



令和元年 **11.17(日)**
14:00~16:00 (開場 13:30)

ホテルメトロポリタン長野

(中宴会場「千曲」)

〒381-0824 長野県長野市南石堂町 1346

その後の
生活が心配...



開会挨拶 小泉 知展 (信州大学医学部 包括的がん治療学教室 教授、信州大学医学部附属病院 信州がんセンター センター長)

講演内容

【小児・AYA 世代のがんについて】

1 信州大学

「北信地域における小児・AYA 世代のがんの現状」

大倉 絵梨 (信州大学 小児医学教室 大学院生)

2 福井大学

「子宮頸がんの予防について」

黒川 哲司 (福井大学 産科婦人科学教室 准教授)

3 富山大学

「がん化学療法における妊孕性の問題」

島 友子 (富山大学 産科婦人科学教室 助教)

【小児・AYA 世代のがん患者の支援や諸問題について】

4 金沢大学

「小児がん患者が AYA 世代に~長期フォローアップ中に出てくる問題点~」

伊川 泰広 (金沢大学附属病院 小児科 特任助教)

5 石川県立看護大学

「AYA 世代の子宮がん経験者の困難 -治療から1年以上経過後のインタビューから-」

樋口 麻衣子 (富山大学附属病院 看護師)

6 金沢医科大学

「患者や家族への支援活動」

木村 美代 (石川県がん安心生活サポートハウス つどい場はなうめ 看護師)

【主催】北信がんプロ (超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成)

【後援】長野県医師会 / 長野県看護協会 / 長野県薬剤師会 / 長野県がん診療連携協議会
信濃毎日新聞社 / abn長野朝日放送

【注意事項】※できるだけ公共交通機関でご来場ください。
(長野駅構内にホテルへの接続口があります)
※お車でお越しの方は、周辺駐車場をご利用ください。



■ 金沢大学 ■ 金沢医科大学
■ 富山大学 ■ 石川県立看護大学
■ 福井大学 ■ 信州大学 共同参画事業

お問合

信州大学医学部 学務第1係 がんプロ事務室

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1

TEL : 0263-37-2580 FAX : 0263-37-3080

メール : mgaku_gp@shinshu-u.ac.jp

http://www.shinshu-u.ac.jp/good_practice/cancer_gp/

おわりに 令和元年の「北信がんプロ」の1年を振り返って



石川県立看護大学学長補佐
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）
石川県立看護大学 がんプロ企画運営委員
企画・総務委員長 牧野 智恵

北信がんプロでの本学の使命は、医学的知識を兼ね備え、アセスメント力をつけたがん看護CNSを育成するために、多職種と連携を図り、がんサバイバーやその家族が安心して治療や看護を受けることができるよう努めることです。過去の北陸がんプロの成果と課題を基盤に、多職種と共同したインテンシブコースや研修会の開催が主な活動でした。

今年度は、本科生を修了した2名が12月にがん看護専門看護師に合格したことが大きな出来事だったと思います。今後この2名が北信地域のがん看護をより良くしていく上での大きな力になってくれると期待しております。

また、「臨床で行うリンパ浮腫のケア」として基礎編とアドバンス編を実施し、がんに伴うリンパ浮腫患者へのケアについて悩んでいる施設や訪問看護のスタッフが多いことを改めて実感しました。今後も、この企画は継続していく予定です。また、10月6日には、本学と金沢大学医薬保健研究域薬学系との合同企画として「ゲノム医療の現状と薬物相互作用を知り、現場に活かそう」を実施しました。北信がんプロでは、ゲノム医療の推進が一つのテーマですが、看護師や薬剤師にはまだまだ理解が少ない分野です。出来るだけ分かりやすく講演していただくことで、活発な意見交換が出来たことをうれしく思います。

他にも今年度の事業としては、テレビ会議システムによる事例検討会を7回実施しました。8回を予定しておりましたが、3月は新型コロナウイルスの感染拡大にともない中止となりました。今年度からは、参加施設の制限がなくなったため参加者が多くなるかと期待しましたが、毎月の平均参加数は昨年度とほぼ同数の参加者でした。次年度は広報を駆使し、参加者を増やして行ければと思っています。

また、新たな試みとして、3月にACP（人生会議）を主題とした「がんになっても自分らしい人生を過ごすために」と題した市民公開講座を企画しました。ACPの重要性を一般市民に自覚してもらうことで、がん終末期になってもその人らしい人生を送ることができます。その第一歩として、今回は、一般市民の方が参加しやすいように、御供田幸子さん（御供田一座のリーダー）に自身の闘病生活のお話と、ACPと厚生労働省のガイドラインについて、その作成を中心的に行った樋口範雄先生のお話を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大にともない次年度へ延期となりました。次年度は9月13日（日）に行う予定ですので、また広報活動をしていきたいと思っています。

今後がん看護の教育充実とがん医療の発展に向け、さらに全国の大学と連携しながら努力していきたいと思っています。

今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

2019 年度
「北信がんプロ」委員会委員、本学企画・運営担当者 一覧表

総務委員会	牧野 智恵・石垣 和子・西田 義明
教務委員会 e-クラウド小委員会	金谷 雅代・田淵 知世・今方 裕子・瀧澤 理穂・ 松本 礼司・牧野 智恵
広報・ICT 委員会	谷本 千恵・瀧澤 理穂
オンコロジーセミナー委員会	今方 裕子
運営協議会	石垣 和子・牧野 智恵
企画委員会	牧野 智恵・松本 智里

本学 「北信がんプロ」各種企画・運営担当者一覧表

ライフステージ事例検討会 薬学部、医学部共同 (テレビ会議システム)	松本 智里・今方 裕子・瀧澤 理穂・岡山 のぞみ
看護実践セミナー リンパ浮腫のケア (基礎編)	金谷 雅代・磯 光江・田淵 知世
看護実践セミナー リンパ浮腫のケア (アドバンス編)	金谷 雅代・磯 光江・今方 裕子
FD・SD 研修 「ゲノム医療の現状と 薬物間相互作用を知り、 現場に活かそう」	牧野 智恵・松本 智里・谷本 千恵
北陸CNSの会 共催企画	牧野 智恵・今方 裕子・瀧澤 理穂
報告書	谷本 千恵・磯 光江・田淵 知世・岡山 のぞみ

2019年度
北信がんプロ
～超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成～
事業報告書

発 行 石川県立看護大学
〒929-1210 石川県かほく市学園台1-1
電話 076-281-8300

発行日 令和2年3月

印 刷 (株)大和印刷社

